

トピックス

選手への応援、大会の盛り上げ 都市ボランティアのメッセージ写真

県内会場の無観客開催の決定を受けてオンラインでもできる活動を実施。都市ボランティアのユニフォームを着用した、選手への応援や大会を盛り上げるメッセージ写真を募集した。集まった940枚のメッセージ写真は、大会期間中、浦和駅をはじめ会場周辺の駅や市役所などのデジタルサイネージで放映され、大会を大いに盛り上げた。



▲大会を盛り上げるメッセージを熱心に記入



▲競技会場内でメッセージ写真を撮影



▲浦和駅構内のデジタルサイネージで放映



▲選手への応援や大会を盛り上げる都市ボランティアからのメッセージ



▲さいたま新都心駅の大型ビジョンに映し出されたメッセージ



▲浦和駅中ノ島地下通路デジタルインフォメーションウォールをジャック

SAITAMA

TOKYO 2020 Olympic and Paralympic Games

Part 5

開催までの軌跡



開催決定から推進体制整備へ

2013年9月、前回大会から56年ぶりに東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることが決まった。本県では4会場でオリンピック4競技、パラリンピック1競技が開催され、開催都市東京都に次ぐ会場数となった。

2015年11月には「2020オリンピック・パラリンピック/ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会」が設立され、全県を挙げて開催準備に取り組んできた。(肩書きは当時)

■出来事

(肩書きは当時)

2013年	
9月7日	国際オリンピック委員会 (IOC) 総会で東京都が開催都市に決定
10月24日	(県) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会連絡調整会議設置
2014年	
1月24日	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会設立
4月1日	(県) 県民生活部に国際スポーツ課を設置
6月10日	舛添要一東京都知事が都議会の所信表明で、会場整備計画見直しを表明
6月20日	(県) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会埼玉県運営支援検討会議設置
11月19日	舛添都知事が都議会でバスケットボール、バドミントン、セーリングの3会場の建設を中止すると表明
2015年	
2月27日	IOC理事会でバスケットボール競技会場をさいたまスーパーアリーナへ変更することを承認
4月1日	(県) 県民生活部にスポーツ局を設置、国際スポーツ課をオリンピック・パラリンピック課に改称
4月21日	(県) 2020オリンピック・パラリンピック/ラグビーワールドカップ2019庁内推進会議設置
11月27日	東京都、組織委員会、国、関係自治体による第1回関係自治体等連絡協議会開催
11月30日	(県) 2020オリンピック・パラリンピック/ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会設立

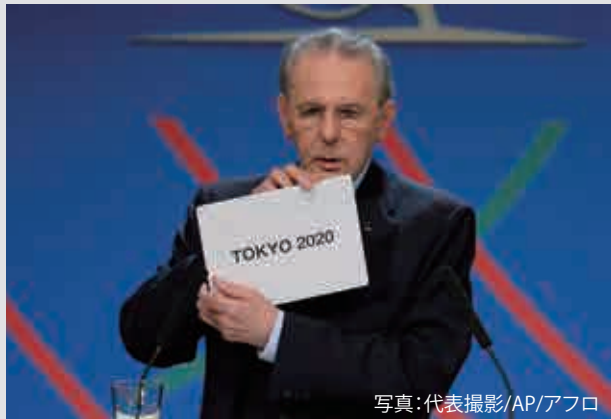


写真:代表撮影/AP/アフロ

▲IOC総会で東京都が開催都市に決定

開催決定から推進委員会設立まで

2013年9月7日、国際オリンピック委員会 (IOC) は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を決めた。東京都が提出した立候補ファイルでは、本県での実施競技はオリンピックでサッカー(埼玉スタジアム2〇〇2)、ゴルフ(霞ヶ関カンツリー倶楽部)、射撃(陸上自衛隊朝霞訓練場)、パラリンピックで射撃(同訓練場)とされていた。

しかし、2014年6月に舛添要一東京都知事が、大会後の利用方法や建設コストの高騰などを理由に会場整備計画の見直しを表明し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、国、日本オリンピック委員会 (JOC)、日本パラリンピック委員会 (JPC) もこれを承認した。

舛添都知事は、11月にバスケットボール、バドミントン、セーリングの3会場の建設中止を正式に表明。2015年2月27日のIOC理事会では、バスケットボール競技会場をさいたまスーパーアリーナに変更することが承認された。

本県では、企画財政部企画総務課(のちに計画調整課)が業務に当たり、2013年10月に庁内各部局が参加する「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会連絡調整会議」を設置し、県内の開催準備や気運醸成を進めた。

2014年4月には、県民生活部に設置された国際スポーツ課に業務が引き継がれ、6月には大会の運営支援や気運醸成に向けた具体的な課題を検討するため、庁内関係課に加え競技団体、会場管理者、会場自治体などから構成される「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会埼玉県運営支援検討会議」を設置した。

さらに、2015年4月に県民生活部にスポーツ局が設置されるとともに国際スポーツ課がオリンピック・パラリンピック課に改称され、開催準備に向けた体制を拡充した。

11月30日には、埼玉県知事を会長とし、県内市町村長や各種スポーツ団体、経済団体、企業のトップなどで構成される「2020オリンピック・パラリンピック/ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会」を設立し、大会の成功に向けてオール埼玉体制で取り組んできた。

■2020 オリンピック・パラリンピック/ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進委員会



ビジョン「SAITAMA PRIDE」から実施計画策定まで

推進委員会では「オール埼玉による取組」及び「スポーツを通じたレガシーの創出」を基本理念に掲げるとともに、目指すべき姿として「SAITAMA PRIDE～スポーツ王国の底力を発揮し、埼玉を新たなステージへ～」をビジョンとした。

基本理念

オール埼玉の取組

県や市町村などの自治体や企業、大学、各種団体など、多様な主体が丸となり、アスリートはもちろんのこと多くの県民に参加・活躍いただく「オール埼玉」体制で両大会を成功に導く。

スポーツを通じたレガシーの創出

前回の東京オリンピック・パラリンピック競技大会は私たちに将来への夢や希望、そして新たな時代への進化を体感させてくれた。両大会においてもスポーツを中心に様々な施策に取り組み、埼玉の未来の発展につながるレガシーを創出する。

ビジョン

本県のスポーツは、国内有数のプロチーム、世界に誇るスポーツ施設、そして国際大会で活躍するアスリートなど、世界で認められる高いポテンシャルを有している。
これは関東平野の中心にある恵まれた立地条件とともに、郷土埼玉への思いを胸に、世界を相手に自らの手で築き上げてきた結果であり、私たち埼玉県民の誇りである。
この誇りを胸に抱き、堂々と両大会に臨もう!そして、本県スポーツの更なる高みを目指すとともに、様々な分野で世界に通じる新たなステージに向かい、一丸となって取り組もう!

SAITAMA PRIDE
～スポーツ王国の底力を発揮し、埼玉を新たなステージへ～

また、官民が一体となり取り組むべき基本的な事項と方向性をまとめ、2016年5月に「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 ラグビーワールドカップ2019埼玉県推進基本計画」を策定した。

さらに、埼玉県推進基本計画を具体化するため、各分野における具体的な実施内容を定めた6つの実施計画を2017年3月から2018年3月にかけて策定した。

■出来事

2016年	
3月31日	森喜朗組織委員会会長、遠藤利明東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣、舛添都知事による会談で、仮施設は組織委員会、恒久施設は都が整備するという従来の費用分担・役割分担を見直すことで合意
5月27日	(県) 埼玉県推進委員会第2回総会において、埼玉県推進基本計画を承認
8月2日	小池百合子東京都知事就任
9月29日	都政改革本部調査チームが、仮施設について、都外の自治体に立地するものは現地自治体と国が負担(補助)等の基本ルールを決め、主体を明確にすべきと報告、提言
12月26日	会場自治体が東京都・組織委員会・国に対し、費用分担・役割分担は、立候補ファイルと大会開催基本計画に基づくことが原則であることを改めて確認するよう要請

6つの実施計画

- 1 気運醸成実施計画
- 2 ボランティア実施計画
- 3 多言語対応実施計画
- 4 文化アクションプラン
- 5 教育アクション推進方針
- 6 環境美化実施計画

■出来事

2017年	
2月22日	小池都知事、東京都以外の仮設整備費の負担の検討を表明
3月	(県) 気運醸成実施計画、ボランティア実施計画、多言語対応実施計画策定
4月	(県) 文化アクションプラン、教育アクション推進方針策定
5月 9日	九都県市首脳会議において、小池都知事が、5月中に費用分担・役割分担の大枠を示すと答えた 埼玉・千葉・神奈川県知事が安倍晋三首相・丸川珠代東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣に対し費用分担・役割分担について早期の大枠合意に向けた協力を要請
5月11日	小池都知事が都外会場の仮設整備費を都が全額負担する旨を表明
5月31日	第2回関係自治体等連絡協議会において、費用分担・役割分担について大枠合意
2018年	
3月	(県)環境美化実施計画策定

■第2回関係自治体等連絡協議会において合意された、大会の役割(経費)分担に関する基本的な方向

【基本的な方向のポイント】

組織委員会
大会運営の主体としての役割を担う ➡民間及び国所有施設の仮設等及び賃借料等に係る経費を負担する ➡仮設等の整備を実施する役割を担う ➡輸送、セキュリティ等に必要な経費を負担し業務全般を担う

国
基本方針(閣議決定)等に基づき、関連施策を実施する ➡新国立競技場の整備を進める ➡国として担うべきセキュリティ対策、ドーピング対策などについて着実に実施する

費用分担・役割分担をめぐる動き

2016年3月に、森喜朗組織委員会会長、遠藤利明東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣、舛添都知事による会談で、仮設施設は組織委員会が、恒久施設は東京都が整備するという従来の費用分担・役割分担について見直す方向で検討することを合意した。

9月には、新たに就任した小池百合子東京都知事が設置した都政改革本部のオリンピック・パラリンピック調査チームが、「組織委員会が仮設施設を整備するのは非現実的であり、組織委員会、都、国の三者、他自治体も参加して、例えば都内は都が負担、他の自治体に立地するものは現地自治体と国が負担(補助)等の基本ルールを決め、主体を明確化するなど現実的な分担ルールを検討すべき」と報告・提言した。

これに対し、10道県市の会場自治体は、費用分担・役割分担については当初どおり、立候補ファイル及び大会開催基本計画に基づくことを再度確認するよう、小池都知事、森会長、丸川珠代東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣へ要請した。

2017年5月11日に小池都知事が都外会場に係る仮設施設の整備費用を東京都が全額負担する旨を表明したことを受け、5月31日に開催された第2回関係自治体等連絡協議会において、費用分担・役割分担について、大枠で合意した。

東京都
大会の開催都市としての責任を果たす ➡都及び都外自治体所有施設の仮設等及び賃借料等に係る経費を負担する ➡都内会場周辺に関わる輸送及びセキュリティ対策に係る経費を負担する

関係自治体
大会開催に向け、円滑な準備・運営に協力する ➡輸送、セキュリティ対策など、大会が開催される自治体として担う業務を実施する ➡所有施設の必要な恒久的改修を進める

埼玉県議会東京オリンピック・パラリンピック 応援議員連盟の活動

2012年7月、「埼玉県議会東京オリンピック・パラリンピック招致応援議員連盟」が設立され、2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会の東京開催に向けた招致活動に協力してきた。

開催決定後は、「埼玉県議会東京オリンピック・パラリンピック応援議員連盟」に改称し、県内への競技会場誘致や積極的な情報開示を要望するなど東京大会の成功に向けて活動してきた。(肩書きは当時)

バスケットボール及びボート・カヌー 競技会場の変更を東京都議会に要望

2014年11月、大会後の利用方法や建設コストの高騰などにより会場整備計画が見直される中、オリパラ議連は「バスケットボール及びボート・カヌー競技会場の変更を求める要望書」を高島なおき東京都議会議長、内田茂自由民主党東京都支部連合会幹事長に提出し、バスケットボール競技会場をさいたまスーパーアリーナへ、ボート・カヌー競技会場を彩湖(戸田市)へ変更するよう要望した。

翌年2月27日には、バスケットボール会場のさいたまスーパーアリーナへの変更が国際オリンピック委員会(IOC)理事会で承認・決定された。

ボート・カヌー競技会場の変更を 国土交通大臣に要望

2016年9月に設置された都政改革本部のオリンピック・パラリンピック調査チームは、ボート・カヌー競技会場の見直しを提案し、彩湖は代替候補地の1つとされた。

同年10月、オリパラ議連は2回にわたり、石井啓一国土交通大臣にボート・カヌー競技会場の彩湖への変更を要望した。



▲国土交通大臣に要望するオリパラ議連(2016年10月18日 国土交通省)

東京2020大会の成功を引き継ぎ、 活動の継続を決定

本県ゆかりの選手の活躍は県民に勇気と希望を与えた。都市ボランティアやホストファミリーなども埼玉ならではの活動で選手を歓迎し、大会を成功に導いた。

こうした経験を将来に引き継ぐため、2021年10月に議連の活動継続を決定した。

■出来事

2012年		(肩書きは当時)
7月 2日	「埼玉県議会東京オリンピック・パラリンピック招致応援議員連盟」として設立	
2013年		
9月 7日	国際オリンピック委員会(IOC)総会で東京都が開催都市に決定	
10月 2日	「埼玉県議会東京オリンピック・パラリンピック応援議員連盟」に改称	
2014年		
11月12日	高島なおき東京都議会議長、内田茂自由民主党東京都支部連合会幹事長に対し、バスケットボール及びボート・カヌー競技会場をそれぞれさいたまスーパーアリーナ、彩湖へ変更を要望	
2016年		
10月18日 28日	石井啓一国土交通大臣に対し、ボート・カヌー競技会場の彩湖への変更を2回にわたり要望	
11月14日	森喜朗組織委員会会長に対し、円滑な開催準備と積極的な情報開示を要望	
2021年		
10月 1日	「埼玉県議会オリンピック・パラリンピック応援議員連盟」に改称	

埼玉県議会オリンピック・パラリンピック 応援議員連盟

顧問	長峰 宏芳			
会長	小谷野 五雄			
会長代理	齊藤 正明			
副会長	宮崎 栄治郎	本木 茂	西山 淳次	
幹事長	小島 信昭			
幹事長代理	田村 琢実			
幹事	神尾 高善	諸井 真英	木下 高志	
	中屋敷 慎一			
事務局長	齊藤 邦明			
会計	立石 泰広			
監事	小久保 憲一			
会員	阿左美 健司	高橋 稔裕	逢澤 圭一郎	山口 京子
	千葉 達也	渡辺 大	松井 弘	高木 功介
	宮崎 吾一	関根 信明	木下 博信	藤井 健志
	美田 宗亮	吉良 英敏	松澤 正	宇田川 幸夫
	浅井 明	飯塚 俊彦	横川 雅也	内沼 博史
	岡田 静佳	細田 善則	永瀬 秀樹	新井 豪
	荒木 裕介	岡地 優	白土 幸仁	小川 真一郎
	武内 政文	須賀 敬史	新井 一徳	梅澤 佳一
	高橋 政雄	金野 桃子	岡村 ゆり子	平松 大佑
	柿沼 貴志	八子 朋弘	杉田 茂実	江原 久美子
	松坂 喜浩	並木 正年	石川 忠義	井上 航
	岡 重夫	醍醐 清	鈴木 正人	白根 大輔
	町田 皇介	辻 浩司	水村 篤弘	高木 真理
	山本 正乃	木村 勇夫	田並 尚明	深谷 顕史
	橋詰 昌児	安藤 友貴	権守 幸男	萩原 一寿
	塩野 正行	蒲生 徳明	石渡 豊	中川 浩
	浅野目 義英			

(2021年10月現在)

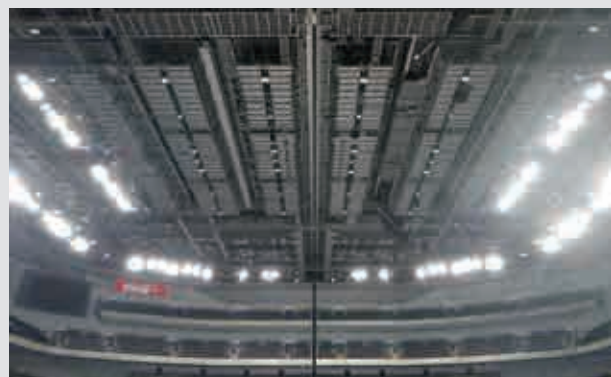
東京2020大会に向けた会場の整備 大会に向けた改修やバリューアップ工事の実施

競技会場の整備に当たり、大会後も利用される設備などの恒久的な改修は、施設を所有する自治体が行うこととされた。一方、仮施設等は組織委員会が工事を実施し、費用は都外自治体所有施設については東京都が、民間及び国の所有施設については組織委員会が負担することとされた。

本県では、さいたまスーパーアリーナと埼玉スタジアム2002において、改修工事を前倒しで実施するとともに、来場者へのおもてなし向上に向けたバリューアップ工事を実施した。

さいたまスーパーアリーナ(バスケットボール)

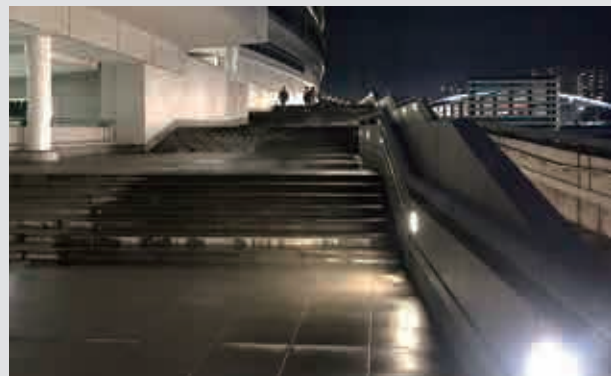
アリーナ空間照明のLED化による厳しい国際基準への対応をはじめ、外壁改修、来場者へのおもてなし向上のための大型LEDビジョン設置、観客退場ルート(丘の回廊)の照明改修、多目的トイレの増設やトイレ洋式化などを実施した。



▲LED化されたアリーナ空間の照明設備



▲建物正面に設置された大型LEDビジョン



▲丘の回廊(外周東側)の照明

観客の待機場所となる「けやきひろば」には、暑さ対策としてドライ型ミスト装置を拡張・更新した。また、円滑な誘導のため、多言語対応のデジタルサイネージを新設したほか、建設当初のコンセプトを継承し意匠に配慮した照明増設を行い、ひろば全体の照度を上げた。



▲ドライ型ミスト装置



▲日英中韓4カ国語表示が可能なデジタルサイネージ



▲手すりに設置された照明

埼玉スタジアム2002(サッカー)

観客席の交換や外壁塗装の塗り替えを実施するとともに、来賓や観客を迎えるため、ビューレストランを新設したほか、Wi-Fiの整備やトイレの洋式化といった設備改修を行った。



▲交換された観客席



▲4階に設置されたビューレストラン

霞ヶ関カンツリー倶楽部(ゴルフ)

組織委員会により、東コースを中心に観客席、観客専用ゲート、給水所といった施設が仮設で整備された。

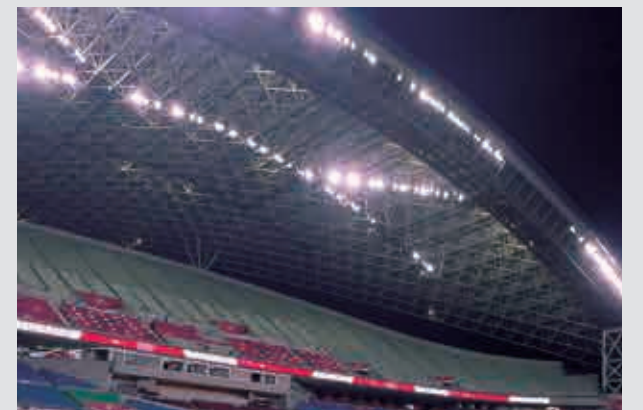
また、既存の練習場に大会運営本部などが設置されたため、西コースに仮設練習場が整備された。



▲仮設の観客席(10番ホール)

©Tokyo 2020/Ken Ishii

さらに、オリンピック基準をクリアするため、ピッチの照明を組織委員会がLED化し、大会終了後には県に有償譲渡された。南広場では、暑さ対策として遮熱性舗装を施すとともに大型日よけテントやミストシャワーを整備した。



▲ピッチのLED照明



▲南広場の遮熱性舗装と大型日よけテント

陸上自衛隊朝霞訓練場(射撃)

組織委員会により、ライフル&ピストル射撃の本選会場及び決勝会場、クレー射撃会場などの大型施設をはじめ、会場運営本部や選手控室など、運営に必要なすべての施設が仮設で整備された。



▲仮設整備されたクレー射撃会場

観客と大会関係者の円滑な輸送に向けて 輸送関連会議と県の取り組み

大会関係者と観客の安全で円滑な輸送と、大会期間中の物流などの都市活動の安定的な継続を両立するため、国、東京都、組織委員会及び関係自治体による協議体が設置され、検討が進められた。

県は各協議体に参加し、組織委員会と連携して県内競技会場における輸送ルートの検討や調整を進め、県民への広報等を行った。

2020年東京オリンピック・パラリンピック 競技大会に係る交通輸送円滑化推進会議

大会期間中の国民や企業等の行動計画を全国的な視野で見直すため、政府、組織委員会、東京都、関係自治体及び経済界が一体となって検討・調整する場として設置された。

2017年から2021年まで計8回開催され、本県からはスポーツ局長が委員として参加した。

東京2020オリンピック・パラリンピック 競技大会 交通輸送技術検討会

安全で円滑な輸送と都市活動を両立するための交通と輸送の高度なオペレーション実現に向け、交通マネジメントの方法を専門的見地から検討するために設置され、2017年から2019年まで計7回開催された。

県は検討会の下部組織であるTDM (Transportation Demand Management: 交通需要マネジメント) ワーキンググループにオリンピック・パラリンピック課長が、TSM (Transportation System Management: 交通システム

マネジメント) ワーキンググループに県土整備政策課政策幹が構成員として参加した。TDM ワーキンググループは交通行動の変化を促すための取り組みを、TSM ワーキンググループは交通量をコントロールする取り組みを検討した。

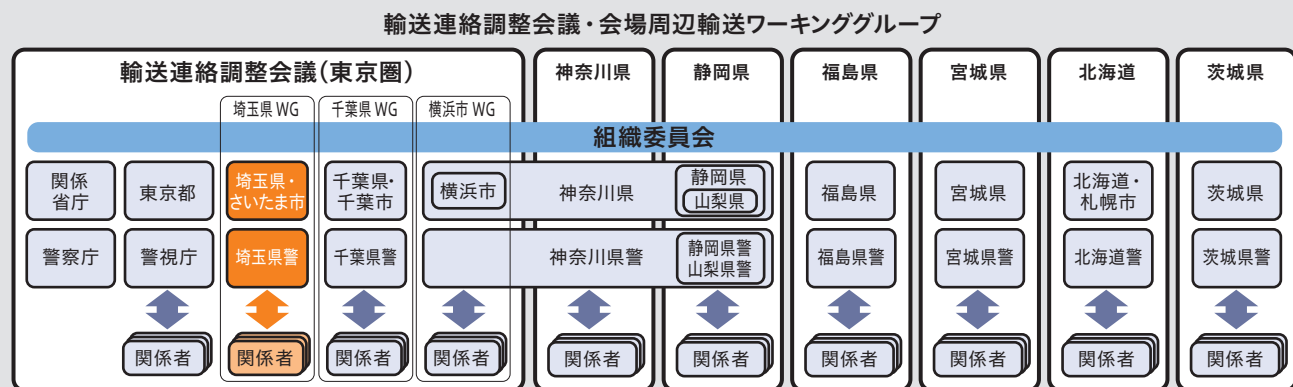
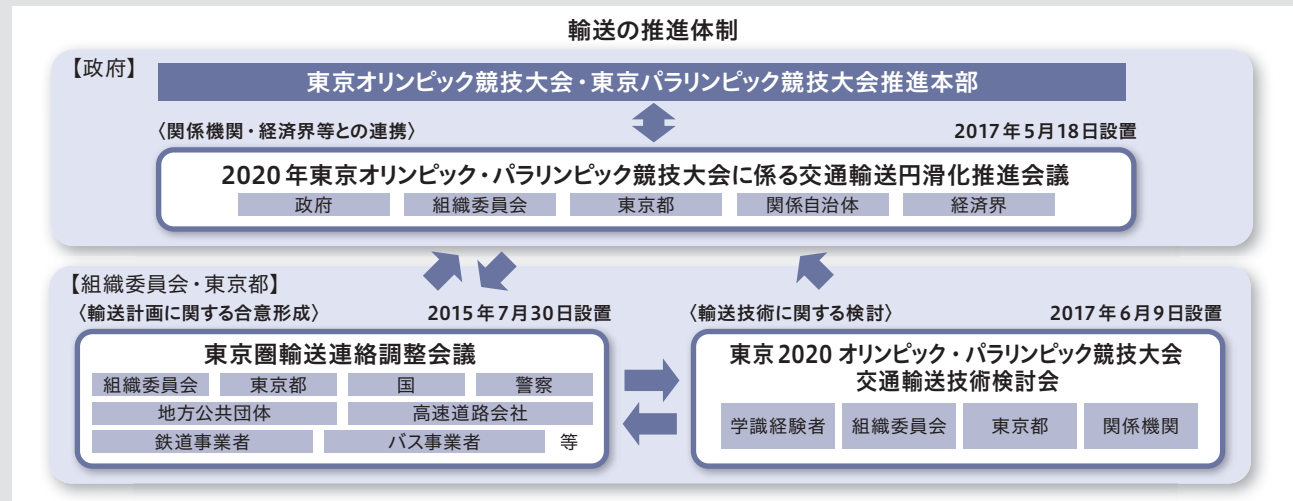
東京圏輸送連絡調整会議

輸送関係者間の意見調整を図り、輸送方針の策定等のため東京都と組織委員会により設置された。

2015年から2021年まで計16回開催され、本県からは交通政策課長と県土整備政策課政策幹が委員として、オリンピック・パラリンピック課長がオブザーバーとして参加した。

埼玉県会場周辺輸送ワーキンググループ

都外会場の輸送の検討のため、道・県ごとに輸送連絡調整会議や会場周辺輸送ワーキンググループ(WG)が設置された。国、地方公共団体、警察、道路管理者、高速道路会社、鉄道・バス事業者等の関係団体が参加し、大会関係者・観客の輸送ルートや会場周辺のTDM等の検討・調整を行った。埼玉県WGは2018年から大会開催までに計4回実施された。



県内会場の輸送

大会関係者及び観客の輸送ルートは、組織委員会が県や県警等の関係機関と連携・調整し、各協議体での検討を踏まえ決定した。

大会関係者のルートは主として高速道路を設定し、一般道では交通容量の大きい4車線以上の道路を優先した。

観客は公共交通機関の利用を原則とし、観客利用想定駅から会場までの移動手段は徒歩又はシャトルバスとされ、県内では、埼玉スタジアム2002、霞ヶ関カンツリー倶楽部、陸上自衛隊朝霞訓練場でシャトルバスが運行される予定であった。霞ヶ関カンツリー倶楽部では、パーク&バスライドの実施も予定されていた。

観客輸送ルートの検討に当たっては、競技終了後の短時間に帰宅者が集中する徒歩ルートの安全性確保や競技終了が深夜に及ぶ際の帰路確保などが考慮された。

また、観客利用想定駅から競技会場へのルートのうち、高齢者や障害者などアクセシビリティに配慮が必要な観客とその同伴者が円滑に移動できるルートは、組織委員会により「アクセシブルルート」として設定された。



■県内会場における観客利用想定駅

さいたまスーパーアリーナ (バスケットボール)	さいたま新都心駅 北与野駅
埼玉スタジアム2002 (サッカー)	浦和美園駅 ⑤ (シャトルバスは往路のみ) 浦和駅 ⑤ 北越谷駅 ⑤ 東浦和駅 ⑤
霞ヶ関カンツリー倶楽部 (ゴルフ)	笠幡駅 川越駅 ⑤ 狭山市駅 ⑤ 稲荷山公園駅 ⑤
陸上自衛隊朝霞訓練場 (射撃)	朝霞駅 ⑤ 和光市駅 ⑤ 光が丘駅 ⑤

※ □ はアクセシブルルートとして利用を想定した駅

⑤ はシャトルバスでの利用を想定した駅

交通混雑緩和に係る県の工事抑制

東京都からの県発注工事の調整依頼を受け、県は庁内の主な工事発注部署となる県土整備部、都市整備部、企業局及び下水道局において工事抑制を実施した。

県土整備部では大会期間中の取組方針として、主に圏央道の内側で実施する県発注工事について、発注時期の調整、工事の一時休止、大会輸送ルートの回避などを定め、交通混雑緩和に取り組んだ。

県庁版TDMの実施

大会期間中の交通混雑緩和のため、県庁内で取り組んだ県庁版 TDM では、働き方の工夫、車両の削減、発注の見直しを行った。

働き方の工夫では、休暇取得やテレワークの実施、WEB会議の活用による出勤者数の削減を実施。車両の削減と発注の見直しでは、公用車の利用抑制や事務用消耗品の納品時期の変更を行った。

県民への協力の呼びかけ

県民に対して、大会開催期間中の交通規制情報の周知と混雑緩和への協力を依頼するため、2021年6月29日から8月31日まで、事前・直前・大会期間中ごとに制作したラジオCMを計56回放送した。

また、組織委員会、県警と連名で県内競技会場周辺の交通対策を知らせるチラシを作成し、県ホームページに掲載するなど情報提供を行った。

このほか、道路利用者への周知のため、組織委員会と県警の協力の下、路面表示や看板、横断幕等が設置された。



▲交通対策を知らせるチラシ



▲混雑緩和への協力を呼びかける横断幕

大会史上初の延期と無観客開催

東京2020大会は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を受け、2020年3月、大会史上初となる1年延期が決定した。

開催に向け、新型コロナウイルス感染症対策や大会の簡素化などの課題について検討が行われ、大会本番は、県内4会場をはじめ、多くの会場が無観客での開催となった。(肩書きは当時)

■大会延期決定の経緯

(肩書きは当時)

2020年	
1月14日	世界保健機関(WHO)が新型コロナウイルスの検出を確認
1月15日	国内で新型コロナウイルスの感染者が確認される
1月22日	新型コロナウイルスの感染拡大により、2月に中国・武漢で開催予定のボクシング、アジア・オセアニア予選中止が決定(3月にヨルダンのアンマンで開催)
1月30日	WHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と宣言
2月4日	組織委員会が新型コロナウイルス感染拡大を受け、対策本部を設置
2月27日	国際オリンピック委員会(IOC)トーマス・バツハ会長が緊急の電話会見で、東京オリンピックの予定どりの開催を強調
3月7日	世界の新型コロナウイルスの感染者数累計が10万人を超える
3月11日	WHOがパンデミックを宣言
3月12日	バツハ会長「今後の推移を注意深く見守りたい」と発言
3月17日	IOC臨時理事会で、予定どりの開催に向けた準備を行うことが確認される
3月22日	カナダオリンピック委員会が、東京オリンピックが2020年に開催される場合は選手団を派遣しないと表明。イギリスやノルウェーのオリンピック委員会も感染拡大が続くなら選手を派遣すべきでないとの考えを示す
	IOC臨時理事会で、大会延期を含めた具体的な検討を始め、4週間以内に結論を出すを発表
3月23日	安倍晋三首相が国会で「仮に完全な形での実施が困難な場合には延期の判断も行わざるを得ない」との認識を示す
3月24日	安倍首相とバツハ会長が電話会談を行い、東京2020大会を1年程度延期し、遅くとも2021年夏までに開催することで合意
3月30日	バツハ会長、橋本聖子東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣、小池百合子東京都知事、森喜朗組織委員会会長によるテレビ会議を実施。日本側が延期後の日程を提案
	IOC臨時理事会で、東京2020大会の新日程を承認、発表

史上初の大会の1年延期決定まで

新型コロナウイルス感染症は瞬間に世界中に拡大し、世界保健機関(WHO)は2020年1月30日に「国際的に懸念される緊急事態」と宣言した。

2月には、組織委員会が対策本部を設置し、国際オリンピック委員会(IOC)トーマス・バツハ会長が予定どりの開催を強調するなど、当初日程での開催に向けた準備が進められていた。

3月になると、11日にWHOがパンデミックを宣言。これに対し、バツハ会長は「今後の推移を注意深く見守りたい」と発言した。

3月17日にはIOC臨時理事会で、予定どりの開催に向けた準備を行うことが確認された。

その一方、3月22日にカナダのオリンピック委員会が、「東京オリンピックが2020年に開催される場合は、選手団を派遣しない」旨を表明し、イギリスやノルウェーのオリンピック委員会も「感染拡大が続くなら選手を派遣すべきでない」との考えを示した。

同日、IOCは臨時理事会を開催し、それまでの方針を一転して、「大会延期を含めた検討を始め、4週間以内に結論を出す」と発表した。

そのわずか2日後の3月24日、安倍晋三首相とバツハ会長が電話会談を行い、大会の1年程度の延期と、遅くとも2021年夏までに開催することで合意した。

3月30日には、バツハ会長、橋本聖子東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣、小池百合子東京都知事、森喜朗組織委員会会長がテレビ会議を実施。日本側から新たな大会日程が提案され、同日のIOC臨時理事会で、承認・発表された。

こうして、東京2020大会は史上初となる1年延期が決定した。

■開催期間

	当初	延期後
オリンピック	2020年7月24日～8月9日	2021年7月23日～8月8日
パラリンピック	2020年8月25日～9月6日	2021年8月24日～9月5日

■大会延期決定後の組織委員会・国等の動き

2020年	
6月10日	組織委員会がIOC理事会で大会延期に伴う大会の位置づけ、原則、ロードマップを発表
9月4日	第1回新型コロナウイルス感染症対策調整会議(議題)状況の確認、対策の枠組み等
9月9日	バツハ会長が記者会見で「全ての関係者にとって安全な環境で来年夏の大会を開催するという原則を引き続き守る」と述べ、安全な環境が開催の条件とする従来の見解を改めて強調
9月23日	第2回新型コロナウイルス感染症対策調整会議(議題)アスリートへの対応について(入国管理、輸送等)
9月24日25日	IOC調整委員会会議で、組織委員会とIOCが52項目の簡素化で合意
10月7日	組織委員会がIOC理事会で、簡素化による削減額を約300億円と報告
10月9日	第3回新型コロナウイルス感染症対策調整会議(議題)競技会場・選手村等におけるアスリートへの対応について
10月27日	第4回新型コロナウイルス感染症対策調整会議(議題)アスリートの保健衛生・医療・療養機能、大会関係者への対応について
11月12日	第5回新型コロナウイルス感染症対策調整会議(議題)アスリートトラックの運用開始、観客の感染症対策、都市ボランティア等の論点について
12月2日	第6回新型コロナウイルス感染症対策調整会議(議題)アスリート、大会関係者、観客について場面ごとに対策を整理し、中間整理案を提示
12月4日	橋本大臣、小池都知事、森会長が会談し、延期に伴う追加経費は2,940億円となり、都が1,200億円、組織委員会が1,030億円、国が710億円を負担することで合意
2021年	
2月3日	組織委員会、IOC、国際パラリンピック委員会(IPC)がプレイブックの初版を公表
3月3日	IOC、IPC、組織委員会、東京都、国による五者協議が開催され、大会会場に海外の観客を入れるかどうかを3月中に、観客数の上限は4月中に判断する方針が示される
3月20日	五者協議が開催され、海外からの観客受け入れの断念を決定、国内観客の上限は4月中に方向性を示すこととされる
4月28日	第7回新型コロナウイルス感染症対策調整会議(議題)変異株等に対応した追加的な対策
	組織委員会、IOC、IPCがプレイブックの第2版を公表 (内容) 海外からの全ての大会関係者が日本滞在中に遵守すべきルールを具体化・精緻化

1年後の開催に向けた課題の検討

東京2020大会の延期決定後、開催に向けた様々な課題について組織委員会や国、東京都等による検討が行われた。

組織委員会は2020年6月10日に大会の位置づけ、原則、ロードマップを公表した。その中で、2021年の開催に向けた方針として、以下の基本原則のもと、関係者が一体となって準備を進めることが示された。

【基本原則】

- ・選手、観客、関係者、ボランティア、大会スタッフにとって安全・安心な環境の提供を最優先課題とする
- ・延期に伴う費用を最小化する
- ・安全かつ持続可能な大会とするため、大会を簡素なものとする

新型コロナウイルス感染症対策の検討では、2020年9月に国が主催し、東京都、組織委員会、IOC、国際パラリンピック委員会(IPC)等で構成する「新型コロナウイルス感染症対策調整会議」が組織された。

会議では、アスリート、大会関係者、観客のカテゴリーについて、入国、輸送、会場等の場面ごとに新型コロナウイルス感染症への対策が整理され、12月2日に中間報告が行われた。

この中間報告の整理を基に、2021年2月、組織委員会はIOC、IPCとともに選手や大会関係者が守るべきルールをまとめたプレイブックを公表した。

プレイブックは、4月と6月に更新され、安全で安心な大会開催に向け、ルールが強化、具体化、明確化された。



▲公表されたプレイブック

写真:新華社／アフロ

大会の簡素化に向けた検討では、2020年9月のIOC調整委員会会議で、組織委員会とIOCが大会関係者の削減や、競技会場の装飾面積の削減など52項目について取り組むことで合意した。

これを受け、組織委員会は簡素化による費用の削減額を精査し、10月7日のIOC理事会で削減額を約300億円と報告した。

その一方、大会延期に伴う新型コロナウイルス対策や競技会場の再契約等に係る追加費用も発生した。12月4日には、橋本大臣、小池都知事、森会長が会談を行い、大会延期に伴う追加費用の2,940億円について、東京都、組織委員会、国がそれぞれ負担することで合意された。

2021年	
4月28日	五者協議が開催され、観客数に係る判断は、6月に国内のスポーツイベント等における上限規制に準じることを基本に行うことで合意
6月15日	組織委員会、IOC、IPC がブレイブブックの第3版を公表 (内容) 行動管理ルールの強化、検査の頻度やプロセスの具体化
6月21日	菅義偉首相が、観客の取り扱いについて、大会期間中に緊急事態宣言が出された場合は、国民の安全・安心を最優先に無観客も辞さない考えを示す
	五者協議が開催され、オリンピックの観客数の上限を会場の「収容定員の50%以内で1万人」とし、パラリンピックは7月16日までの方針決定が示される
7月 8日	東京都に7月12日から緊急事態宣言が発出されることを受け、五者協議が開催され、以下の事項を決定した。 ・都内会場の無観客開催 ・緊急事態宣言発出区域以外は、関係自治体等連絡協議会を開催し、地域の状況を踏まえ、首長と協議の上、具体的な措置を決める ・パラリンピックの観客数の取り扱いは、今後の感染状況等を踏まえて判断する必要があるためオリンピックの閉会後に決める
	五者協議後、関係自治体等連絡協議会が開催され、埼玉、神奈川、千葉の3県の無観客開催が決定
7月23日	オリンピックが開幕(～8月8日)
8月16日	IPC、組織委員会、東京都、国による四者協議が開催され、パラリンピックは全ての競技で原則無観客とすることで合意
8月24日	パラリンピックが開幕(～9月5日)

無観客開催の決定まで

新型コロナウイルス感染症は、2021年になっても収束の兆しを見せず、1月7日には東京で当時最多の2,520人の新規感染者が確認され、1月27日には世界の感染者数累計が1億人を超えた。

こうした中、IOC、IPC、組織委員会、東京都、国による五者協議の場で、東京2020大会の観客の取り扱いが検討された。

3月3日には、大会会場に海外の観客を入れるかどうかを3月中旬に、観客数の上限を4月中旬に判断する方針が示され、3月20日には、現在の状況では海外から自由な入国を保証するのは困難であるとして、海外からの観客受け入れを断念することが決定した。

4月28日の五者協議では、国内の観客数に係る判断は、6月に国内のスポーツイベント等における上限規制に準拠することを基本に行うことで合意され、6月21日、オリンピックの観客数は「会場の収容定員の50%以内で1万人」を上限とすることが決定した。

7月8日、東京都に4回目の緊急事態宣言が発出されることを受け、五者協議が急遽開催され、人流を抑制するとともに、感染拡大の防止等に向けたより厳しい措置として、東京都内の全会場の無観客開催が決定した。パラリンピックの観客数の取り扱いは、オリンピック閉会後に決めることとされた。



▲7月8日に開催された五者協議

また、その後に開催された関係自治体等連絡協議会において、埼玉、神奈川、千葉の3県の会場での無観客開催が決定した。

8月16日にはIPC、組織委員会、東京都、国による四者協議が開催され、緊急事態宣言が出されている東京、埼玉、千葉に加え、静岡の状況と現下の感染状況を踏まえ、より厳しい措置として、パラリンピックでは全ての競技で原則無観客開催とすることが決定した。

学校連携観戦については、共生社会の実現に向けた教育的要素が大きいことから、保護者等の意向を踏まえて自治体や学校設置者が希望する場合には、安全対策を講じた上で実施可能とした。

組織委員会・埼玉県・会場市の連携 情報連携体制の構築

組織委員会と県及び会場市は、大会期間中の情報連携体制を構築し、大会運営に影響を及ぼす情報の相互共有に努めた。県オリンピック・パラリンピック課に設置した「埼玉県運営支援本部」には組織委員会のリエゾン(情報連絡員)を、競技会場内の会場運営本部には県のリエゾンを相互に配置し、双方向からの情報の収集体制を整え、事案対処に当たった。

組織委員会の体制

組織委員会はメイン・オペレーション・センター（MOC）を設置し、大会運営に関するハブ（基幹）として、国際オリンピック委員会（IOC）や国際パラリンピック委員会（IPC）、東京都が設置した都市オペレーションセンターなど外部機関と連携するとともに、各種の調整や問題解決、情報共有を一元的に行った。

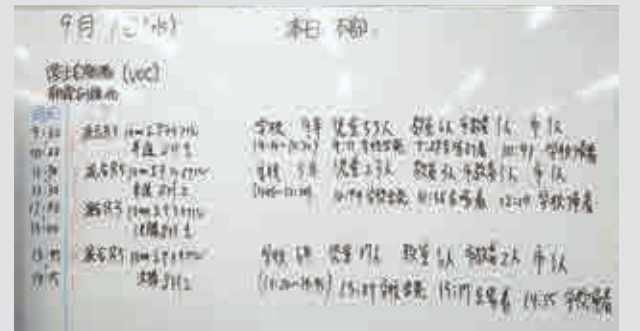
また、複数会場にまたがる事案等に対処するファンクショナル・コーディネーション・センター（FCC）や、交通・輸送を管理する輸送センター等も設置された。

各競技会場には会場運営本部（VOC）と会場警備本部（VSCC）が置かれ、会場運営責任者（VGM）が中心となって、各競技会場の運営や発生事案への対応が行われた。

大会時における埼玉県の体制

県オリンピック・パラリンピック課に「埼玉県運営支援本部」を設置し、職員が常駐して、VOC 内の県リエゾンや会場市から情報を収集するとともに、県運営支援本部に配置された組織委員会のリエゾンを通じ、MOC との情報共有を図った。

VOC 内の県リエゾンからは、競技の開始・終了情報や交通・輸送の運営状況、会場内でのトラブルなどが随時報告され、県支援本部ではその報告と、テレビやインターネット中継等により、県内開催競技の運営状況を常時把握した。

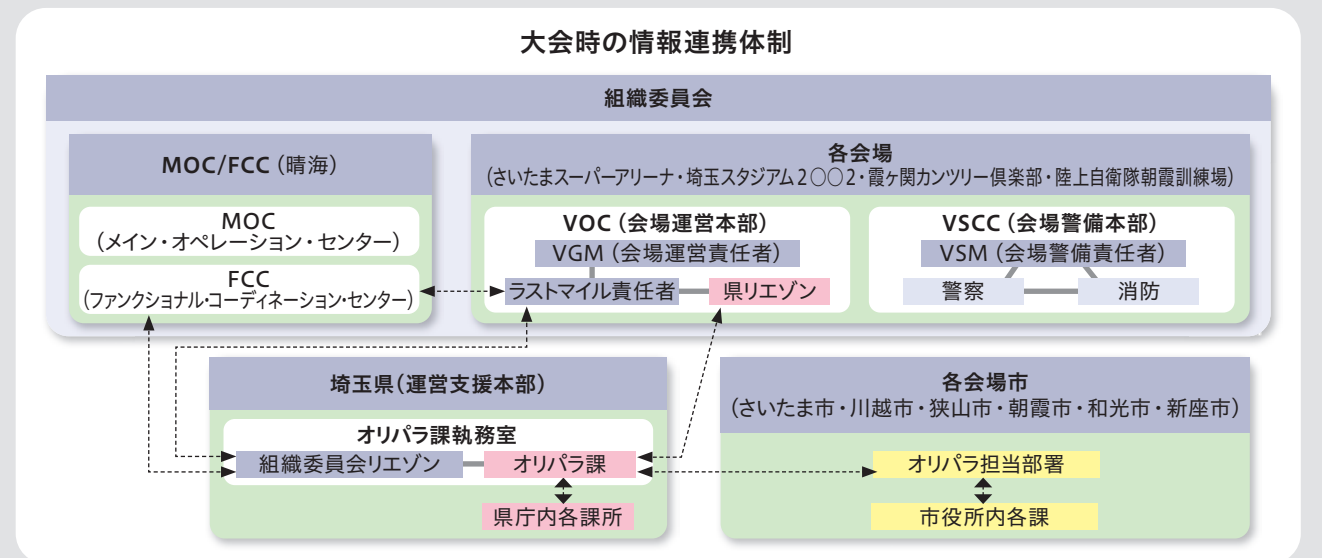


▲県運営支援本部内のホワイトボード

また、県庁内の関係課所や会場市、ライフライン事業者と情報を随時共有し、大会の運営に影響する情報の把握に努めるとともに、県民等からの問い合わせに対応した。

組織委員会と共有した情報の項目		
・上水道 ・下水道 ・電気 ・ガス ・通信 ・道路情報 ・水道水水質	・フードトラブルの発生情報 ・1日の新型コロナウイルス新規陽性者数 ・放射線量 ・光化学スモッグ	・PM2.5 ・河川等の水質 ・危機情報 ・災害情報 ・消防救急情報 ・広報情報

なお、当初は、観客が競技会場に向かう動線となるラストマイルの状況を把握するため、観客利用想定駅周辺4カ所に運営支援現地本部を設置する予定だったが、無観客開催の決定に伴い取りやめた。

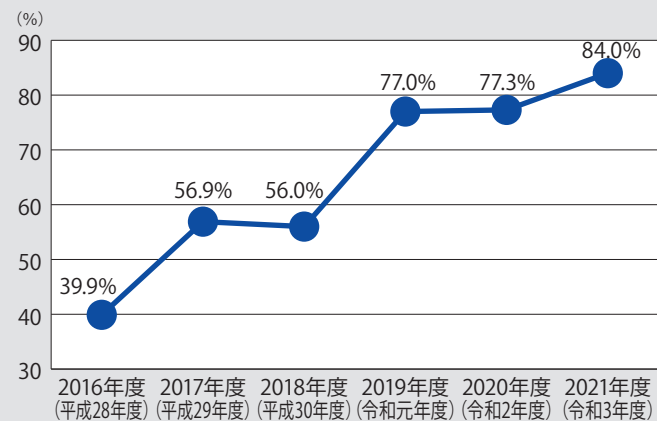


気運醸成の取り組み 「SAITAMA PRIDE」で大会を盛り上げ

東京 2020 大会の気運を醸成するため、周年イベントや競技体験等の実施による大会認知度の向上をはじめ、大会の広報大使「SAITAMA PRIDE アンバサダー」の認定、東京 2020 参画プログラム全国一運動の取り組みを推進した。その結果、大会認知度は 2016 (平成 28) 年度の 39.9%から、大会開催年の 2021 (令和 3) 年度には 84.0%に大きく上昇した。

事業の実施に当たっては、認知度が低い若年層や女性、射撃競技を意識した内容にするなど、調査結果を踏まえた取り組みを展開した。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が埼玉県内で開催されることの認知状況



▲大会が県内で開催されることを知っている人の割合



■カウントダウンイベント

組織委員会などの関連行事と連携したイベントを数多く実施した(※)。多くの来場者を集めてPRするだけでなく、メディアへの露出による波及効果を意識した広報を展開した。

大会2年前、1年前イベントは、県内の大型ショッピングモールで開催し、これまでにない大規模な集客を図った。

また、県内10カ所のショッピングモールでのイベントや、聖火リレートーチを市町の庁舎等で展示するなど、競技会場市以外の地域でイベントを開催。全県での盛り上がりを図った。

※周年イベントは延期前の開催年から起算

年度	日程	イベント名	会場	来場者数(人)
2016	7月 24日(日)	オリンピック4年前イベント	コクーンシティ/コクーンひろば	2,000
	8月 25日(木)	パラリンピック4年前イベント	県立和光南特別支援学校	120
2017	7月 24日(月)	オリンピック3年前イベント	けやきひろば1階プラザ	2,300
	8月 25日(金)	パラリンピック3年前イベント	総合リハビリテーションセンター	550
	10月 28日(土)	オリンピック1000日前イベント	けやきひろば1階プラザ	3,000
2018	11月25日(土)~12月3日(日)	パラリンピック1000日前イベント	入間市文化創造アトリエ「アミーゴ」	950
	7月 21日(土) 7月 22日(日)	オリンピック2年前イベント	イオンレイクタウン	510,000
	8月 25日(土)	パラリンピック2年前イベント	ららぽーと富士見/富士見市立市民総合体育館	51,000
2019	3月 12日(火)	オリンピック500日前イベント	県庁 本庁舎南玄関前	300
	7月 20日(土) 21日(日)	オリンピック1年前イベント	イオンレイクタウン	500,000
	7月 27日(土)	オリパラ1年前月間イベント	イオンモール春日部	28,000
	7月 28日(日)		アリオ深谷	78,000
	8月 3日(土)		イオンモール羽生	30,000
	8月 4日(日)		ピオニウォーク東松山	23,201
	8月 10日(土)		イオンタウン上里	14,251
	8月 11日(日)		三井アウトレットパーク入間	99,000
	8月 17日(土)		ウニクス秩父	13,156
	8月 18日(日)		アリオ上尾	35,000
	8月 24日(土)		ららぽーと富士見	49,000
	8月 25日(日)		イオンモール北戸田	37,630
	1月 6日(月)	オリンピック200日前PR	埼玉会館大ホール	1,000
2020	10月 6日(火) ~	オリンピック聖火リレートーチ巡回展示(新型コロナウイルス感染拡大により中断)	県内市町の庁舎等(41市町)	26,563
2021	4月 14日(水) ~	オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチ巡回展示(新型コロナウイルス感染拡大により中断)	県内市町の庁舎等(16市町)	7,969

■競技体験キャラバン

県内開催競技や大会への関心を高めるため、イベントでの競技体験の実施や小中学校向け競技体験の開催、JOCオリンピック教室によるオリパラ教育の推進を展開した。競技体験には4年間で延べ 68,725 人が参加した。

・イベント併催競技体験

イベントでは、一般向けにスナッグゴルフ、ビームライフル、ブラインドサッカー、車いすバスケットボールなど、県内開催競技にちなんだ競技体験を実施。競技団体、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会など関係者の協力を得ながら、県内開催競技の認知度向上に努めた。



・小中学校向け競技体験

小中学校で実施する競技体験や講演会等の開催を支援した。体験会ではオリンピック・パラリンピアン・トップアスリートが講師を務め、実技等を通してスポーツへの関心を高める授業を行った。

■SAITAMA PRIDEスペシャルアンバサダー

オリンピック・パラリンピアン・トップアスリートの方々にオリンピック・パラリンピックの埼玉県での開催をPRしていただいた。

Special Ambassador

 村田 諒太 プロボクサー ロンドンオリンピック ボクシング 金メダリスト	 ベイカー 茉秋 リオオリンピック 柔道 金メダリスト	 鈴木 啓太 元サッカー日本代表 元湘和レス選手	 田口 亜希 アテネ・北京・ロンドン パラリンピック 射撃出場	
 田中マルクス嶋莉王 元サッカー日本代表 アテネオリンピック出場 元湘和レス選手	 加藤 凌平 リオオリンピック 体操団体 金メダリスト 早稲市出身	 三宅 宏実 ロンドンオリンピック ウェイトリフティング 銀メダリスト 新座市出身	 荒井 広宙 リオオリンピック 水泳200m/タフライン 陸上50km競歩 銅メダリスト	 新井 涼平 リオオリンピック 陸上やり投げ出場 長瀬市出身
 設楽 悠太 リオオリンピック 陸上10000m出場 寄居町出身	 村岡 桃佳 平昌パラリンピック アルペンスキー 金メダリスト 深谷市出身	 瀬戸 大也 リオオリンピック 水泳400m個人メドレー 銀メダリスト 毛呂山町出身	 星 奈津美 リオオリンピック 水泳200m/バタフライ 銅メダリスト 越谷市出身	 藤光 謙司 リオオリンピック 陸上200m出場 さいたま市出身

・JOC オリンピック教室

JOCが主体となり、オリンピックが教師役となり、自身の経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」を伝える、中学校 2 年生を対象とした授業。

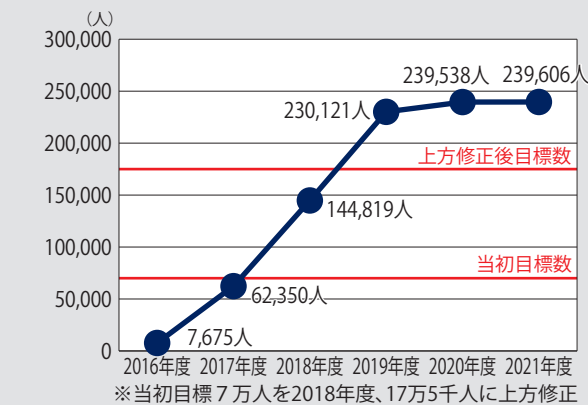
2017 年度から 2021 年度(8 月末日現在)までに、14 校、1,298 人が参加した。

■SAITAMA PRIDEアンバサダー認定

「SAITAMA PRIDE アンバサダー」は、大会の県内開催を多くの県民に広める広報大使。県民を対象に、イベントなどを通じて認定し、認定証を交付した。

[認定要件]

- ・東京 2020 大会の県内開催競技と会場を認知する
- ・東京 2020 大会が埼玉県で開催されることをできるだけ多くの人に伝えることを約束する



■SAITAMA PRIDEスペシャルPRサポーター

発信力の高いタレントの方々に、埼玉県でのオリンピック・パラリンピックの開催を広めていただいた。

Special PR Supporter

 稲村 亜美 タレント	 才木 玲佳 筋肉アイドル 埼玉県出身	 春日 俊彰 お笑いコンビ 「オードリー」 所沢市出身
 AYA フィットネスモデル クロスフィット トレーナー	 西谷 綾子 モデル・タレント	 福島 和可葉 タレント
 照英 俳優・タレント 鴻巣市出身	 浜谷 健司 お笑いコンビ 「ハマカーン」 入間市出身	 猪狩 ともか アイドルグループ「仮面女子」 埼玉県出身

■メディア等を活用した PR

・テレビ放映

2016 年度から 2019 年度まで PR テレビ番組を制作し、テレビ埼玉で放映した。

番組はホームページにアーカイブ化して公開した。

〔2016 年度〕

番組名 「輝け☆未来のアスリート!」

放送期間 10 月 1 日～ 3 月 25 日(放送回数 24 回)
毎週土曜日 12:55 ～ 13:00

内 容 県が強化・育成する「彩の国ドリームアスリート」、
「彩の国パラリンピック育成強化選手」を紹介



〔2017 ～ 2019 年度〕

番組名 「埼玉で開催! Tokyo2020」

放送期間 2017 年 10 月 7 日～ 3 月 31 日 毎週土曜日 12:55 ～ 13:00
2018 年 10 月 6 日～ 3 月 30 日 毎週土曜日 12:55 ～ 13:00
2019 年 10 月 5 日～ 3 月 31 日 毎週土曜日 12:00 ～ 12:05
(放送回数 各年 24 回)

内 容 東京 2020 大会に関する人物や県の取り組みな
どを紹介。2018 年度からレポーターにスペシャ
ル PR サポーターの 3 人を起用した。



〔2019 年度〕

特別番組 「埼玉で開催! 1 年前イベント」

放 送 日 8 月 10 日(土) 20:00 ～ 20:30

内 容 7 月に開催した「1 年前イベント」を特集



・ラジオ放送

現地取材とスタジオでの生のトークを組み合わせ、若年層やドライバーをターゲットにした番組を制作、エフエムナックファイブで放送した。

番組名 「埼玉プライド オリンピック Pick Up !」

放送時間 毎週日曜日 10:20 ～ 10:35 頃
(「びーさんぼーいず」8:00 ～ 12:00 放送内)

内 容 東京 2020 大会に関する競技、県の取り組み、
有望選手などを紹介

放送期間 2018 年 7 月 1 日～ 2018 年 12 月 30 日
(放送回数 27 回)

2019 年 7 月 7 日～ 2020 年 3 月 29 日
(放送回数 39 回)

2020 年 4 月 5 日～ 2021 年 3 月 28 日
(放送回数 52 回)

2021 年 4 月 4 日～ 2021 年 6 月 27 日
(放送回数 13 回)

・PR 動画制作

映画館広告や街頭大型ビジョンなどで放映する素材として、東京 2020 大会の県内開催 PR 動画を制作した。

年度	内容	秒数
2017	県内開催競技・会場紹介	15 秒
2018		30 秒
2019	過去大会の動画を大胆に活用	30 秒
2020	アニメで県内開催競技を紹介 (2021 年度はコロナ禍の状況を踏まえ 再編集)	30 秒
2021		15 秒



▲2020 年度制作 PR 動画

・映画館広告

スポーツに関心の低い層や幅広い年代にアプローチするため、映画館で広告を上映した。

年度	秒数・期間	館数	訴求人数
2017*	15 秒・6 カ月	5	2,086,093 人
2018*	30 秒・6 カ月	10	3,898,025 人
2019	30 秒・6 カ月	10	3,341,705 人

*2017・2018 年度は、年度末の 2 週間は 23 館において上映

・大型ビジョン放映

大勢の人が行き交う駅等での PR として、大型ビジョン(デジタルサイネージ)を活用した広報を実施した。

期間	場所
2019 年 6 月～ 2020 年 3 月	大宮駅西口アルシェビジョン
2019 年 11 月～ 2021 年 9 月	大宮駅西口コカ・コーラビジョン
	上尾駅西口ショーサンプラザ
	浦和駅西口デジタルサイネージ
2021 年 2 月～ 7 月	さいたまスーパーアリーナ
2021 年 3 月～ 9 月	埼玉県県民活動総合センター

※このほか、県内市町村の庁舎や所有する施設の大型ビジョン・サイネージを活用し、放映。(42 カ所・162 基)

・教育動画制作、活用

コロナ禍において小中学校での競技体験に代わるオリンピック・パラリンピック教育の教材として、教育局監修の下、教育動画を制作した。

多くの教科に対応するように 5 種類のテーマを設定し、1 時間の授業内で活用しやすいよう 1 本約 15 分の動画とした。県ゆかりのアスリートや関係者にも多数出演いただいた。動画は県内外 77 校以上(2021 年 3 月 31 日現在)で活用された。

【動画テーマ】■パラアスリート

- オリンピックの価値
- 身近なボランティアとおもてなし
- 埼玉県の聖火リレー
- 大会を陰で支える人



▲オリンピックの価値編



▲身近なボランティアとおもてなし編

・ラッピングバスの運行

県内を走行するバスにラッピング広告を掲出。大会 500 日前に県庁南玄関前で出発式を行い、県内で開催される競技のデザインを施した 12 台のバスが開催 PR のために発進した。

運行期間 2019 年 3 月～ 2021 年 9 月

運行ルート ①草加エリア(東武バスセントラル)、②川越エリア(東武バスウエスト)、③さいたま東エリア(国際興業バス)、④西浦和エリア(国際興業バス)、⑤狭山エリア(西武バス)、⑥新座エリア(西武バス)、⑦秩父エリア(西武観光バス)、⑧越谷エリア(朝日自動車)、⑨菖蒲エリア(朝日自動車)、⑩熊谷エリア(国際十王交通)、⑪森林公園エリア(川越観光自動車)、⑫日高・飯能エリア(イーグルバス)

・屋外広告

県民に認知度の高い大会エンブレムをデザインに活用した広報物を作成し、競技会場や会場最寄り駅に掲示した。

また東京 2020 ライブサイト開催予定地であったソニックシティには、大会エンブレムをデザインした大型ラッピング広告を掲出した。



▲ソニックシティラッピング広告

・彩の国だより特集ページ

(2021 年 7 月、8 月号)

県広報紙彩の国だより特集ページを発行し、オリンピック・パラリンピックの競技スケジュールや県ゆかりの選手などを紹介した。



▲彩の国だより 7 月号特集ページ

・広告付年賀はがき

2020 年の広告付年賀はがきを 30 万枚発売した。

〈期間〉2019 年 11 月 1 日
～ 2020 年 1 月 10 日

・海外向け広報
(Time Out Tokyo)

英文 PR ガイドマップ Time Out Tokyo「埼玉でしたい 50 のこと」を 5 万部制作し、羽田空港や都内高級ホテル、渋谷駅観光案内所などで配布した。大会期間中は、Time Out のウェブサイト上で、世界に向けて埼玉の魅力を発信した。



■聖火リレーーチ巡回展示

延期となったオリンピック・パラリンピックの気運を再び醸成するため、希望する市町村においてトーチ等を展示した。トーチの他、東京1964大会の聖火リレー関連物品や公式ユニフォームなど、それぞれ工夫を凝らした展示を行った。実施期間：2020年10月6日～2021年5月11日(新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響による中断を含む)

展示場所：延べ57市町の庁舎等



■ウェブサイト

東京2020大会の県内開催を国内外に向けて発信する手段として、2016年4月に特設サイトを開設。海外への発信力強化のため2018年3月に英語ページを追加、翌年3月には機械翻訳システムにより8言語(英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、フランス語)の自動翻訳に対応させた。



■SNS

情報拡散性があるSNSを活用してPRを行った。大会期間中は、Twitterによる県ゆかりの選手や県内開催競技に関する投稿を毎日行った。

・フェイスブック「埼玉で開催! Tokyo2020」

2015年5月から運用を開始し、東京2020大会に関する話題や県の取組について継続的に情報を発信した。2019年度、2020年度には広告配信やプレゼントキャンペーンなどフォロワーを獲得する事業を展開した。フォロワー 21,609人(2021年8月31日時点)

・LINE「埼玉で開催! Tokyo2020」

2021年1月から運用開始。若年層をターゲットとしたPRを目的にオリジナルスタンプを制作して「友だち」に配布した。



▲友だち登録でダウンロードできるスタンプ
友だち 82,652人(2021年8月31日時点)

・ツイッター「埼玉で開催! Tokyo2020」

2021年6月から運用開始。情報発信の即時性と拡散性を重視し、大会直前・期間中の盛り上げに活用した。聖火リレールートやランナーの情報、県ゆかりの選手の競技情報などをリアルタイムで発信した。投稿数 488件(2021年6月23日～9月5日)
フォロワー 16,274人(2021年9月6日時点)

■大会期間中イベント(東京2020ライブサイト)

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止
チケットを持たない人でも、大画面による競技中継で大会を体感でき、海外の観客と交流し、世界に「SAITAMA」の魅力を発信するイベント。オリンピック・パラリンピックの大会期間中、それぞれ開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み開催を中止した。
会場 オリンピック：ソニックシティ
パラリンピック：朝霞市立総合体育館
経緯 2021年4月16日 東京2020ライブサイトを中止。パブリックビューイングのみに縮小し開催を検討
2021年6月7日 大野元裕知事が記者会見で大会期間中イベント全体の中止を発表



▲東京2020ライブサイト(ソニックシティ)イメージ図



▲東京2020ライブサイト(朝霞市立総合体育館)イメージ図

東京2020 参画プログラム

東京2020大会の盛り上げや大会後のレガシー創出を目指して、全国のあらゆる方々と共に取り組む参加型のプログラム。さまざまな主催者により、組織委員会の認証を受けた多様なイベントや事業が展開された。本県では、「東京2020参画プログラム全国一運動」として、認証件数全国一(東京都を除く)を実現した。

県内参画プログラム認証件数

10,881件
(2021年11月現在)(東京都を除き全国1位)

参画プログラムの構成

「公認プログラム」と「応援プログラム」があり、アクション&レガシープランの5つの柱を8つの分野に分け、各分野のレガシー創出に向けた取り組みを推進した。



▲東京2020大会に向けて五輪のシンボルカラーでライトアップ
©さいたまスーパーアリーナ

〈2つのプログラム〉



東京2020 参画プログラム



東京2020 公認プログラム

- 各省庁、開催都市、スポンサー、JOC、JPC、会場関連自治体、大会放送権者が実施
- 公認事業としての位置づけ

東京2020 応援プログラム

- 非営利団体等が実施
- アクションの裾野を広げ、多くの人々が参画できることを目指す

〈分野〉



beyond2020 プログラム

2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を生かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを「beyond2020プログラム」として認証。

営利活動、非営利活動に関わらず、文化に関する幅広い活動が対象となり、国・都道府県・政令指定都市等が認証を行った。東京2020参画プログラムへの認証要件に合致しない事業については、beyond2020プログラムでの認証を目指した。

県内 beyond2020 認証件数

1,110件(2021年12月17日現在)(全国3位)



ロゴマーク

※「いいね」や「グッド」など賛同のジェスチャーをモチーフ。同時に、beyondの「b」や、日本を象徴する「わ」も表す。



▲埼玉WABI SABI大祭典

PR グッズ

埼玉県で開催される東京2020オリンピック・パラリンピックの周知と気運醸成を図るため、ポスターやガイドブック、啓発グッズなどを作製した。

ポスターは市町村や各種団体等に協力をいただき掲出し、啓発グッズはイベントやPRブース等で配布した。

■ポスター



■ガイドブック



■ガイドブック携行版



■のぼり旗



■懸垂幕



■バナー(フラッグ)



■屋外広告塔



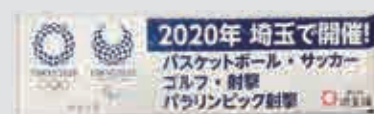
■バックパネル



■フォトパネル



■横型バナー



■アンバサダー認定ブース



■アンバサダー認定カード



■うちわ



■卓上のぼり



■缶バッジ・ピンバッジ



■ウェットティッシュ



■ナップサック



■バッグ型クリアファイル



■消しゴム



■小判抜き袋



■広告付年賀はがき



■海外向けガイドマップ



■タオル



感染症・暑熱対策の準備

大会本番の安心・安全に備えて

大会の延期を受けて、新しい生活様式の下で大会本番に県が実施するイベントや都市ボランティアの活動を安心・安全に行うため、2020年7月から8月にかけて、感染症対策と暑さ対策のテストを実施し、検証した。

大会期間中イベント開催に向けた対策テストの実施

概要

日 時：2020年7月27日～30日 各日10:00～17:00
場 所：ソニックシティ イベント広場・第一展示場
参加者：県、委託スタッフ 計40人
視 察：組織委員会、市担当者等 計15人

感染症対策のテスト

多数の来場者が想定される大会期間中イベントにおける感染症対策機材の適切な選定や、機材の効果的な動作を確保できる設置場所などを検証した。

〔結果〕

- ・発熱検知機材の屋外での使用は、体温が高めに計測されたり、雨天時には故障リスクがあるなど、正確な測定が困難であった。
- ・発熱検知機材の屋内での使用は、同時に複数人（3～6人）の正確な測定が可能であり、適していた。



▲発熱検知機材のシミュレーション

暑さ対策のテスト

東京2020ライブサイトを実施予定のイベント広場の安全で快適な環境を確保するため、必要な暑熱対策機材の種類や台数などをテストした。

〔結果〕

- ・エアコンと送風機の併用は冷却効果が高かった。
- ・バズーカタイプのドライミスト（水を霧状に噴射）は、全体に風とミストが行き渡り、視覚的な効果もあった。
- ・ミストの出し過ぎは湿度が上がリ、逆に不快に感じる場合があった。



▲イベント広場でのテスト風景



▲ミストファンバズーカタイプ

都市ボランティア活動に向けた対策テストの実施

概要

日 時：2020年8月5日～7日 各日10:00～16:00
場 所：埼玉スタジアム2002 南門ゲート内
参加者：県、会場市職員 計19人
視 察：組織委員会、他県担当者等 計39人

感染症対策のテスト

マスクやフェイスシールドの着用、案内ブースへの透明パーテーションの設置、ソーシャルディスタンスの確保など、感染症対策を講じた際の課題を検証した。

〔結果〕

- ・炎天下でのマスクとフェイスシールドの併用は体への負担が大きかった。
- ・フェイスシールドと透明パーテーションの併用は声が届きづらかった。
- ・グッズを使った案内は楽しい雰囲気演出できた。



▲案内ブースのシミュレーション



▲グッズを使っておもてなし

暑さ対策のテスト

マスク着用などにより、当初の想定より厳しい環境下での屋外活動を余儀なくされるため、休憩場所として炎天下に設置したテントを利用できるかを、冷却機材を用いてテストした。

〔結果〕

- ・テント内に床置き型エアコンを設置したところ、室内並みに冷却することができた。（テント内温度が最大約15℃低下）
- ・常態的にテントを換気した場合も冷却が可能だった。（内部の温度上昇は3～4℃程度に抑えられる）



▲炎天下にテントを設置



▲冷却機材のテスト

東京 2020 埼玉県聖火リレー

大会への期待と興奮を最も身近で実感できる一大イベント

オリンピック・パラリンピック両聖火リレーのルート選定から運営に関する調査、実施までを一貫して統括するため、「東京2020埼玉県聖火リレー実行委員会」を設置、聖火リレーに関わる県内62市町村などが参画した。また、ランナー候補者の選考については、公平性、透明性を確保するため、実行委員会とは別に、外部有識者による「埼玉県聖火ランナー候補者選考委員会」を設置。オリンピック・パラリンピック合わせて15,528人の応募者から計132人の埼玉県選出枠の聖火ランナー候補者を選定した。

東京 2020 埼玉県聖火リレー実行委員会の設置

2018年7月、県庁内の知事部局をはじめ教育局、警察本部の関係各課、県内全域の消防本部、セレブレーション会場の公園管理者および県内62市町村が参画して聖火リレー実行委員会を設置、体制を強化した。

東京2020 埼玉県聖火リレー 実行委員会	（2018年7月24日設置、2021年7月時点）	
	会 長	大野元裕 埼玉県知事
	副会長	青葉昌幸 埼玉陸上競技協会名誉会長
	委 員	塩浦綾子 県障害者スポーツ協会会長
		原口和久 市長会会長（鴻巣市長）
		古谷松雄 町村会会長（杉戸町長）
		原和也 県警本部長
		高田直芳 県教育委員会教育長
	特別委員	聖火リレー関係市町村の長

埼玉県 聖火ランナー候補者 選考委員会	（委員5名：2019年9月20日設置、2020年3月時点）	
	－聖火ランナーの候補者を選考－	
	委員長	細川江利子 県スポーツ審議会会長
	委 員	中田次夫 埼玉陸上競技協会会長
		河本弘 県スポーツ協会専務理事
		重田博 県障害者スポーツ協会専務理事
		松本邦義 県物産観光協会会長

作業部会 （下部組織）	（2019年6月3日設置）	
	－専門的事項の調査、検討－	
	部会長	県スポーツ局長
	委 員	関係市町村担当部課長
		関係市町村消防本部担当部課長
		県オリンピック・パラリンピック課長
		県警オリンピック・パラリンピック対策課長
		県関係各課長
		セレブレーション会場管理者

※県庁内関係課

企画財政部地域政策課、危機管理防災部消防課、県土整備部道路環境課、都市整備部公園スタジアム課、教育局教育政策課

※志木市は庁舎建て替えによる仮移転の業務多忙のため、パラリンピック聖火フェスティバル「採火式」への不参加を表明。実行委員会にも参画しなかった。
その結果、実行委員会には県内全63市町村のうち、ほぼすべての62市町村が参画した。

埼玉県聖火ランナー候補者選考委員会の開催経緯

回	開催日	検討内容
	2019年9月20日	選考委員会設置
1回	2019年10月15日～17日	第1回選考委員会
2回	2019年10月23日	第2回選考委員会（オリンピック聖火ランナーを選出）
3回	2020年3月9日～13日	第3回選考委員会
4回	2020年3月16日	第4回選考委員会（パラリンピック聖火ランナーを選出）

作業部会の開催経緯

回	開催日	説明事項等
1回	2019年6月14日 作業部会設置	オリンピック聖火リレールート、道路利用・警備計画、セレモニー、ランナー募集などを説明
2回	2020年2月19日	パラリンピック関係市町村の担当課長を委員に加えて開催。 警備員・警備資機材一括手配などを説明

■聖火ランナー募集及び選考

実行委員会は、ランナー候補者の選考に際して、①埼玉らしい多様性、②居住地域のバランス、③「SAITAMA PRIDE」の発信の3点を県独自の考え方として定め、組織委員会から県に与えられたランナー選出枠（オリンピック75人（65人＋グループランナー10人）、パラリンピック47人（29人＋グループランナー9人×2組））のすべてを一般公募することとした。

オリンピック聖火リレーでは東京都を除き全国最多の14,113人の応募が、パラリンピック聖火リレーも、東京都を除き実施都県で最多の1,415人の応募があった。（聖火ランナー名簿はP191～P198を参照）

ランナー候補者の選考は、2019年9月に「埼玉県聖火ランナー候補者選考委員会」を設置して実施した。

埼玉県の聖火ランナー募集状況

	オリンピック 聖火ランナー	パラリンピック 聖火ランナー
募集期間	2019年7月1日(月) ～8月31日(土)	2019年12月16日(月) ～2020年2月15日(土)
応募総数	14,113人	1,415人
最終選考数	95人 (一般65人、グループ 10人、補欠20人)	63人(※) (一般29人、グループ 18人、補欠16人)

※大会延期後、組織委員会から追加選出の要請があり、補欠10人を追加選出した。

●近隣都県の応募状況

〈オリンピック〉

東京都 …… 16,932人（165人公募）
千葉県 …… 5,779人（33人公募）
神奈川県 …… 8,417人（51人公募）
静岡県 …… 4,212人（60人公募）

〈パラリンピック〉

東京都 …… 4,229人（75人公募）
千葉県 …… 1,180人（29人公募）
神奈川県 …… 実施なし
静岡県 …… 743人（24人公募）



▲聖火ランナー募集のポスター

■本番に備えた準備

オリンピック聖火リレーでは、1日に1回程度、聖火を「瞬間移動」させて、特殊な走行を実施することができる。本県でも各日、特殊な聖火リレーの走行を決定。オリンピック聖火リレーのメインルート区間（親の火）、パラリンピック聖火リレーと合わせて、本番に備えた入念なロケハンおよびリハーサルを警察本部、地元消防、市町村等の関係者と合同で実施した。

〈2019年〉	
7月 9日 ～11日	オリンピック聖火リレー（親の火）ルートロケハン
8月 7日 ～9日	オリンピック聖火リレー（親の火）ルートロケハン（組織委員会合同）
8月22日	パラリンピック聖火リレールートロケハン
9月 4日 ～5日	オリンピック聖火リレー（子の火）特殊区間ルートロケハン（組織委員会合同）

〈2020年〉	
7月 6日 ～8日	オリンピック聖火リレー（親の火、子の火）ルートロケハン
8月20日	パラリンピック聖火リレールートロケハン
10月29日	オリンピック聖火リレー特殊区間（ラインくだり）リハーサル



▲1日目第7区間の出発地点を確認（富士見市）



▲2日目第4区間ラインくだりのリハーサル。報道陣に公開し、多くの取材があった（長瀬町）

〈2021年〉	
1月 6日	オリンピック聖火リレー特殊区間（陸船車、自転車）リハーサル
4月 7日	オリンピック聖火リレー特殊区間（乗馬）リハーサル
4月21日	オリンピック聖火リレー特殊区間（秩父鉄道）リハーサル
5月16日	オリンピック聖火リレー3日目第7区間（グループランナー）リハーサル
5月28日	オリンピック聖火リレー特殊区間（ラインくだりトーチキス）再リハーサル



▲3日目第7区間グループランナーのリハーサル。かけ声に合わせて、写真撮影のポーズを練習（さいたま市）

■オリンピック聖火リレーの実施

東京2020大会の延期により、聖火リレーも1年の延期となった。2021年3月25日、聖火は、福島県のＪヴィレッジをグランドスタートした後、121日間で47都道府県を巡り、7月23日の開会式で聖火台に点火された。本県は46番目（7月6日（火）～8日（木））に実施。開催都市である東京都に聖火を引き継ぐ重要な役割を担った。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大は、聖火リレーの運営に大きな影響を及ぼし、11道府県で全ての公道での聖火リレーを中止、9都県で一部または大半の公道リレーを中止、当初の計画通り実施できた県は27にとどまった。

・埼玉県のオリンピック聖火リレー

埼玉県のオリンピック聖火リレーは、感染症拡大防止の観点から、まん延防止等重点措置の対象地域であった1日目第1区間（川口市）と、3日目最終第7区間（さいたま市）で、公道での聖火リレーを中止。代替措置として、川口市では青木町公園で「埼玉県 オリンピック聖火リレー出発記念式」を開催した。

さいたま市ではセレブレーション会場のさいたま新都心公園で、会場内のステージや花道で聖火をリレーする「点火セレモニー」を実施した。

実際に全国のオリンピック聖火ランナーが走行した距離は合計約1,280km。最長は埼玉県の70.5km。公道中止の代替措置も含め県内を274人のランナーで聖火をつないだ。75人のランナーは埼玉県が選出し、その他はプレゼンティングパートナー4社（コカ・コーラ、トヨタ自動車、日本生命、NTT）および組織委員会などの推薦によるランナーであった。最年長は行田市を走行した由利貞男さん（89）、最年少は朝霞市を走行した奥野湖々奈さん（13）と鶴ヶ島市を走行した濱崎修人さん（13）であった。

・オール埼玉で取り組んだ聖火リレー実施体制

聖火リレー実施中は、県庁内に実施本部を設置し、県、警察、消防、組織委員会スタッフなど、最大20人態勢で聖火リレーの進行を管理。各区間本部から寄せられる事案報告や計99台の監視カメラから映し出されるルート沿道の画像を常時チェックした。

また、全ての区間に区間本部を設置し、当該市町や地元警察、消防関係者と県職員を配置し、実施本部と緊密に連携を図ったほか、ランナーの集解散場所である「コレクションポイント」（資料編199ページ）にも市町職員、県職員を配置し、不測の事態に備えた。



▲実施本部の様子（埼玉県庁第2庁舎231会議室）

・オリンピック聖火リレー 区間データ

	区間	市町村	スロット数	ランナー数 (人)	走行距離 (km)
1 日目	1	川口市			
	2	蕨市/戸田市	10	10	1.8
	3	戸田市（NTTドコモSS）	2	2	0.3
	4	和光市/朝霞市/新座市	22	22	4.5
	5	日高市	10	10	3.5
	6	狭山市	10	10	2.1
	7	富士見市/三芳町/ふじみ野市	12	12	2.5
	8	所沢市	11	19	2.4
セレブレーション会場：所沢航空記念公園					
		小計	77	85	17.1

	区間	市町村	スロット数	ランナー数 (人)	走行距離 (km)
2 日目	1	草加市	10	10	1.8
	2	八潮市/三郷市	7	6※	1.3
	3	吉川市/越谷市	9	9	1.9
	4	秩父市/皆野町/長瀬町	11	11	13.8
	5	春日部市	5	5	0.9
	6	杉戸町/宮代町	6	6	1.3
	7	久喜市/加須市	13	13	2.8
	8	行田市	7	7	1.9
	9	熊谷市	15	14※	3.1
セレブレーション会場：熊谷スポーツ文化公園					
		小計	83	81	28.8

	区間	市町村	スロット数	ランナー数 (人)	走行距離 (km)
3 日目	1	川越市	9	9	1.6
	2	鶴ヶ島市/坂戸市	14	14	2.6
	3	本庄市/深谷市	18	18	13.4
	4	嵐山町/東松山市/滑川町	12	11※	2.6
	5	鴻巣市/北本市	12	12	2.3
	6	桶川市/上尾市	11	11	2.2
	7	さいたま市			
セレブレーション会場：さいたま新都心公園					
		小計	76	75	24.6

■ 特殊区間 ■ スポンサーストップ ■ 公道中止

3日間合計

区間	スロット数	ランナー数 (人)	走行距離 (km)
22	236	241	70.5
代替措置（さいたま新都心公園）	26	33※	—

オリンピック聖火ランナー

274人（グループランナー2スロット含む）

うち県選出 75人（公募65人・グループランナー10人）

※欠席者5人（2日目第2区間1人、第9区間1人、3日目第4区間1人、第7区間（代替措置）2人）

・セレブレーション実施概要

会場	1日目
	所沢航空記念公園
観覧者数	346人
オープニング プログラム	実行委員会プログラム ・重松流祭ばやし ・JAY'S GARDEN LIVE
	NTTプログラム ・県立杉戸高等学校ダンス部
	日本生命プログラム
	コカ・コーラプログラム ・山村国際高等学校（ダンス）
到着セレモニー※	
聖火展示	

会場	2日目
	熊谷スポーツ文化公園
観覧者数	444人
オープニング プログラム	実行委員会プログラム ・熊谷市内小学校5年生による 作文の優秀作品発表 ・熊谷市立妻沼東中学校の 吹奏楽演奏
	NTTプログラム ・県立杉戸高等学校ダンス部
	コカ・コーラプログラム ・県立熊谷高等学校、 県立熊谷女子高等学校（合唱）
到着セレモニー※	
聖火展示	

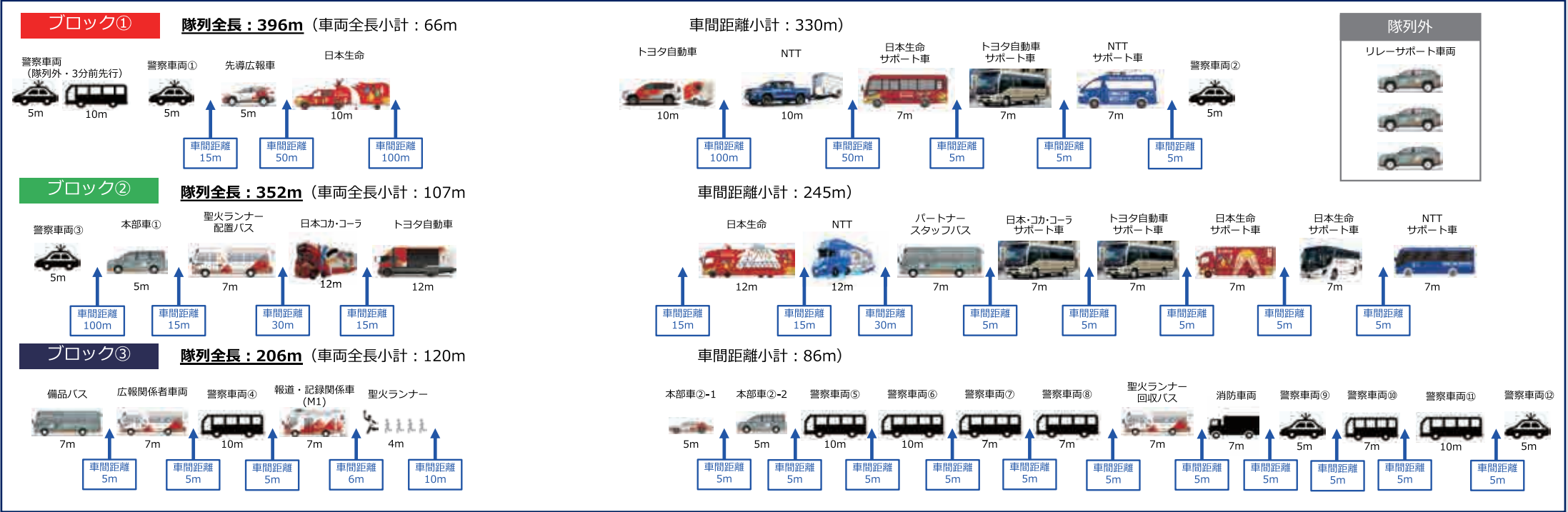
会場	3日目
	さいたま新都心公園
観覧者数	387人
オープニング プログラム	実行委員会プログラム ・さいたま市立浦和南高等学校バトン部 ・さいたま市立大宮北高等学校ダンス部
	NTTプログラム ・県立杉戸高等学校ダンス部
	日本生命プログラム
	コカ・コーラプログラム ・花咲徳栄高等学校（吹奏楽）
点火セレモニー	川口市点火セレモニー
	さいたま市点火セレモニー
到着セレモニー※	
聖火展示	

- ※ 到着セレモニー（約20分）の概要は以下のとおり
- ・聖火ランナーの到着
 - ・聖火皿への点火
 - ・聖火ランナーインタビュー
 - ・実行委員会代表挨拶（知事、地元市長）
 - ・フォトセッション

■40台を超える車列(親の火)の運行で オリンピック聖火リレーの進行を管理

オリンピック聖火リレーは、プレゼンティング・パートナー 4社（コカ・コーラ、トヨタ自動車、日本生命、NTT）のPR用大型コンボイや警察部隊配置バス等の大型車両をはじめ、40

〈聖火リレーの隊列（親の火）〉



・オリンピック聖火リレー出発式

	区間	市町村	実施場所
1日目	1	川口市(※)	青木町公園
2日目	1	草加市	まつばら綾瀬川公園内
3日目	1	川越市	川越城本丸御殿

※川口市では公道でのリレーを中止し、出発記念式を実施

・オリンピック聖火リレーミニセレブレーション

	区間	市町村	実施場所
1日目	4	新座市	新座栄緑道広場
	5	日高市	巾着田曼珠沙華公園内広場
2日目	3	越谷市	イオンレイクタウン mori 噴水広場
	4	秩父市	秩父神社・御本殿前
3日目	3	本庄市	はにぼんプラザ(本庄市市民活動交流センター)
	4	嵐山町	国立女性教育会館

台を超える車両（親の火）が一斉に移動した。各区間の交通規制時間に合わせて遅滞なく進行させる必要があることから、県幹部職員も先導広報車や本部車に同乗した。警察本部交通部門や所轄警察署の交通規制担当者と緊密に連携しながら、組織委員会スタッフと協働で各区間のスタンバイから撤収まで車列の進行を管理した。

結果、1日目第6区間（狭山市）での観覧客の救急搬送事案の発生で、第7区間（富士見市・三芳町・ふじみ野市）のスタートに遅れが生じたものの、同区間の撤収時間や次の第8区間（所沢市）のスタンバイ時間を圧縮。3日間を通じてほぼ予定どおりの進行を実現した。

■パラリンピック聖火フェスティバル の実施

会場自治体である静岡県、千葉県、埼玉県、東京都と、開催都市としての東京都のみで実施。残りの43道府県は、採火式、集火式、出立式のみを行い、聖火リレーを含めた総称は「パラリンピック聖火フェスティバル」と呼ばれた。聖火リレーは、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、静岡県の第3区間（御前崎市・菊川市）を除き、すべての区間で公道での実施が中止となった。

・埼玉県のパラリンピック聖火リレー

埼玉県のパラリンピック聖火リレーは、6市町41スロット、走行距離7.9kmでの実施を予定していたが、緊急事態宣言の発令を受け、公道での走行を中止。代替措置として、出立式会場であった朝霞中央公園陸上競技場で、全てのランナーがトラック上で聖火リレーを行った。ランナーが走行した距離の合計は、代替措置としては最長の計6.0kmであった。

集火式会場も、さいたま新都心けやきひろばから同競技場へ変更した。採火式は予定どおりオリンピック、パラリンピックとも聖火リレーが通過しない17市町村で実施したことで、県内ほぼ全ての市町村が、オリンピック・パラリ

ンピックいずれかのリレーに関わる事ができた。

県内で参加したパラリンピック聖火ランナーは134人。内訳は県が選出した55人の他、プレゼンティングパートナー（LIXIL）と組織委員会などの推薦によるランナーで、最年長は第1区間（幸手市）を走行した高瀬秋治さん（91）、最年少は第4区間（入間市）を走行した戸田昊希さん（13）であった。

・パラリンピック聖火リレー 区間データ

区間	市町村	スロット数	ランナー数 (人)	走行距離 (km)
1	朝霞中央公園陸上競技場(幸手市)	7	26※	1.2
2	朝霞中央公園陸上競技場(蓮田市/白岡市)	9	26※	1.2
3	朝霞中央公園陸上競技場(川島町)	8	26※	1.2
4	朝霞中央公園陸上競技場(入間市)	8	30	1.2
5	朝霞中央公園陸上競技場(朝霞市)	9	26※	1.2
	計	41	134	6.0

パラリンピック聖火ランナー
134人(グリープランナー3スロット含む)
うち県選出 55人(公募37人・グリープランナー18人)
※ 欠席者7人(第1区間1人、第2区間1人、第3区間4人、第5区間1人)

・採火式実施概要（17市町村で実施）

市町村名	会場	採火の方法
飯能市	トーベ・ヤンソン あけぼの 子どもの森公園	丸太(スウェーデントーチ)に地元バラアスリートが火を付け、その火を市長が採火する。
羽生市	羽生市産業 文化ホール	市内障がい者施設で製作した絵灯籠を会場に並べる。 参加者の手により順番に絵灯籠に火をともし、羽生市の火として採火する。
伊奈町	伊奈町役場	町の名前の由来となった伊奈備前守忠次をイメージし、火打ち石による江戸時代の採火を再現する。
毛呂山町	毛呂山総合公園 体育館入口前 広場	町内障がい者施設入通所者、町内障がい者団体会員及び町内小中学校児童・生徒から集めた火をつにし、毛呂山の火とする。
越生町	世界無名 戦士の墓	おごせ福祉作業所が事前におこし道具等でおこした火を祭壇の口ウソクにともしておき、拝礼と献花により世界平和を祈念したのち口ウソクから採火を行う。
小川町	小川町役場前 広場	町特産の和紙を用いて、町内の児童・生徒の協力により採火式を演出する。 点火棒を使用して採火を行う。
吉見町	吉見町役場	町内障がい者施設を担当職員が回り、入所者等の代表者にランタン等に点火してもらい火種を作成する。集めた火種を、役場で一つにして、これを基に採火を行う。
鳩山町	鳩山町泉井 交流体験エリア 交流体験館	奈良時代の火おこし（揉錐（もみぎり）・火打石）を再現して採った火と、小学生でも可能な舞錐（まいぎり）法によりおこした火を県障がい者アーチェリー協会副会長が集めて鳩山の火とする。
ときがわ町	ときがわ町 体育センター (せせらぎホール)	町内小学校から5人公募し、火おこし体験を行う。火おこし体験でおこした火を採火する。
横瀬町	寺坂棚田	県内最大級の棚田である「寺坂棚田」に灯されるかがり火から採火を行う。
小鹿野町	小鹿野町 両神山村広場	子どもたちに火おこし道具等で火をおこしてもらい、その火を採火する。
東秩父村	道の駅と紙の里 ひがしちちぶ	現存する江戸時代後期に建てられた紙漉(す)き家屋にある囲炉裏から採火を行う。
美里町	堂前山 猪俣百八燈塚 五重塚	毎年8月15日に猪俣地内で行われる盆行事「国指定重要無形民俗文化財 猪俣の百八燈」で採火を行う。
神川町	武蔵二宮 金鑽神社	日本武尊（やまとたけるのみこと）が火打石と火鑽金（ひきりがね）を奉納したことを創始とする神社で、同用具により火をおこす。
上里町	上里町役場 (東側駐車場前)	社会福祉法人梨花の里理事長、上里町スポーツ協会、上里町教育委員会の各代表に熾された火を集め、一つの火「上里の火」とする。
寄居町	鉢形城歴史館	鉢形城歴史館前の大型休憩施設で火おこしを行い、寄居町の火を採火する。
松伏町	町内小中学校	職員が各小中学校を訪問して特別支援学級の児童・生徒の協力を得て採火し、役場で一つに集めて松伏の火とする。

・聖火ビジット実施概要（43市町で実施）

市町名	展示施設ほか
さいたま市	さいたま市子ども家庭総合センター（あいぱれっと）
川越市	①川越市役所本庁舎1階ロビー ②川越市総合福祉センター「オアシス」
熊谷市	熊谷市役所本庁舎1階ロビー
川口市	川口市役所第一本庁舎 多目的スペース
所沢市	所沢市役所1階市民ホール
飯能市	飯能市役所本庁舎 中庭ウッドデッキ
本庄市	塙保己一記念館
春日部市	東部地域振興ふれあい拠点施設「ふれあいキューブ」1階
狭山市	①狭山市役所庁舎 ②狭山市立青い実学園 ③中新田自立スクエア ④多機能型支援施設みのり ⑤大樹の森 ⑥大樹の家 ⑦リバーサイド
鴻巣市	①鴻巣市役所本庁舎ロビー ②市民活動センター ③本町コミュニティセンター ④市民センター ⑤中央公民館 ⑥箕田公民館 ⑦笠原公民館 ⑧常光公民館 ⑨あたご公民館 ⑩田間宮生涯学習センター⑪吹上生涯学習センター ⑫川里生涯学習センター ⑬北新宿生涯学習センター ⑭花と音楽の館かわさと「花久の里」 ⑮鴻巣市産業観光館「ひなの里」 ⑯鴻巣市総合福祉センター ⑰鴻巣市地域活動支援センターコスモス工房 ⑱社会福祉法人元氣村 夢工房翔裕園
深谷市	①深谷市役所 ②深谷市総合体育館(深谷ビッグタートル)
上尾市	①上尾市役所 ②上尾駅
草加市	草加市総合福祉センター であいの森
越谷市	越谷市役所
蕨市	蕨市総合社会福祉センター
戸田市	戸田市役所
和光市	和光市民文化センター（サンアゼリア）展示ホール
新座市	福祉の里
桶川市	①桶川市役所 ②おかげわメイン OKEGAWA hon プラス+ イベントスペース
久喜市	ふれあいセンター久喜
北本市	①北本市役所庁舎ホール ②北本市体育センター
八潮市	八潮市役所本庁舎
富士見市	富士見市立市民総合体育館
三郷市	ららぽーと新三郷内「ららぽーとみさと」
蓮田市	蓮田市役所
坂戸市	坂戸市役所
幸手市	幸手市民文化体育館(アスカル幸手)
日高市	日高市総合福祉センター「高麗の郷」
吉川市	吉川市役所
ふじみ野市	ふじみ野市役所本庁舎ロビー
白岡市	白岡市生涯学習センター（こもれびの森）
伊奈町	伊奈町役場
三芳町	三芳町役場
毛呂山町	毛呂山町役場
越生町	越生町中央公民館視聴覚ホールロビー
小川町	①リリックおがわ ②あすなろ ③フレンドリー小川 ④けやき ⑤キャンディ ⑥ちよこれ〜と ⑦リリックおがわ
川島町	川島町役場
鳩山町	鳩山町役場1F ホール
横瀬町	横瀬町役場本庁舎1階ロビー
神川町	神川町役場
上里町	①社会福祉法人「梨花の里」 ②上里町役場町民ホール
寄居町	寄居町公式 SNS
松伏町	松伏町役場

■新型コロナウイルス感染症対策

聖火リレーの実施に当たっては、感染症対策を徹底して行った。主な対策は次のとおり。

(1) 基本的な予防対策

3密（密閉・密集・密接）の回避、飛沫感染・接触防止、殺菌・消毒の徹底、体調管理・確認の徹底

(2) コース沿道での観覧対策

・事前対応

沿道サイン（滞留・密集、大声での声援の禁止）の設置やオリンピック聖火リレールートの沿道約31万世帯に対し自宅での観覧を呼び掛ける独自チラシの配布、新聞広告（朝日、読売）の掲載など

・当日対応

観覧エリアが密集しないよう管理を徹底するほか、感染リスクの高いスロット（①著名人走行、②幅員狭小、③駅前、④商業施設付近）について、スマートフォン型の監視カメラを設置。実施本部で監視し、適宜対策を現場に指示。



▲沿道では互いの間隔を空けるよう、協力と呼び掛け



▲観覧者が密集しないよう、プラカードで呼び掛け

県民の皆様へ

彩の国 埼玉県

おうちで見よう、埼玉県聖火リレー

2021年 7月6日(火)・7日(水)・8日(木)

●聖火リレーの観覧は自宅からインターネットのライブ中継をご覧ください。
●沿道の「密(密集・密接) 回避」に、皆様のご協力をお願いします！

パソコンやスマホで

NHKでインターネットライブを見る
すべての世帯の聖火リレーの様子や、県と各ランナーの連携などはインターネットのライブ中継でご覧いただけます。ご自宅でお楽しみください。
<http://reports.nhk.or.jp/olympic/saicho/>

もっとオリンピック・パラリンピックについて知りたい
特設サイト
埼玉で開催！Tokyo 2020をご覧ください
<https://www.gpf.saitama.lg.jp/oly-gara/index.html>

▶ 自宅での観覧を呼び掛けるチラシ

(3) セレブレーション会場での観覧対策

・事前対応

観覧は原則「事前予約制」として入場者を把握。来場者には国や県の新型コロナウイルス感染追跡アプリの登録を案内。オリンピック聖火リレーのセレブレーションは収容人数を従来の最低3,000人から500人程度に抑制。パラリンピック聖火フェスティバルは、ランナー1人につき4人まで入場可など。

・当日対応

事前予約ができなかった方や来場しない方でも楽しめるように、セレブレーションの模様を独自にライブストリーミング方式で動画配信。



▲セレブレーション会場入場時の体温チェック



▲感染予防のため、2席空けの座席

埼玉県 東京2020オリンピック聖火リレー開催に伴う、交通規制にご協力をお願いいたします。

1日目 7月6日(火) 2日目 7月7日(水) 3日目 7月8日(木)

各地図の数字は区間番号を示しています。

県民の皆様へ
おうちで見よう、埼玉県聖火リレー

●聖火リレーの観覧は自宅からインターネットのライブ中継をご覧ください。
●沿道の「密(密集・密接) 回避」に、皆様のご協力をお願いします。

NHKでインターネットライブを見る
すべての世帯の聖火リレーの様子や、県と各ランナーの連携などはインターネットのライブ中継でご覧いただけます。ご自宅でお楽しみください。
<http://reports.nhk.or.jp/olympic/saicho/>

もっとオリンピック・パラリンピックについて知りたい
特設サイト
埼玉で開催！Tokyo 2020をご覧ください
<https://www.gpf.saitama.lg.jp/oly-gara/index.html>

◀ 新聞紙面でも交通規制への協力と自宅での観覧を呼び掛け

埼玉県の都市ボランティア

「埼玉県の顔」として笑顔でおもてなし

「埼玉県の顔」として国内外から訪れる大勢の観戦客へのおもてなしを行う都市ボランティア。

説明会・基本研修を皮切りに、合計65日間、281回の研修を開催して延べ18,868人が受講。動画配信による研修も多数行った。大会直前には、希望者に対して新型コロナウイルスのワクチン接種を実施し、大会に備えた。

募集から採用まで

【募集人数】5,400人

【募集期間】

2018年8月16日(木)から9月30日(日)まで

【応募条件】※全てを満たす方

- ①2002年4月1日以前に生まれた方
- ②日本国籍を有する方又は日本に居住する資格を有する方
- ③日本語による簡単な会話(意思疎通)ができる方
- ④電子メールやホームページを閲覧できる方

【活動区分・活動日数】

活動区分	一般	リーダー	語学専門 (英語・英語以外)
活動日数	3日間以上	5日間以上	

【選考・面接】

一般は書類選考、リーダー及び語学専門は書類選考の上、11月10日(土)から12月7日(金)の間に16日間、面接を実施した。

【選考結果】

応募者9,650人のうち、5,400人を採用した。



都市ボランティアの採用

	一般	リーダー	語学専門 (英語)	語学専門 (英語以外)	計
募集	4,000	300	700	400	5,400
応募	6,660	525	1,937	528	9,650
採用	3,939	291	767	403	5,400

※さいたまスーパーアリーナ2,225人、埼玉スタジアム2002 616人
霞ヶ関カンツリー倶楽部1,013人、陸上自衛隊朝霞訓練場1,546人

説明会・研修

2018年度

(1) 説明会・基本研修

採用が決まった都市ボランティアを対象に、活動内容、活動場所、今後の研修予定の説明、人を笑顔にする方法や心構えなどを楽しみながら学ぶ説明会・基本研修を実施した。

【日程】2019年1月22日(火)から2月24日(日)の間で5日間

【会場】埼玉会館、市民会館おおみや、ウェスタ川越、朝霞市民会館

【講師】吉本興業株式会社 所属タレント ほか

【参加者数】5,069人

2019年度

(1) 普通救命講習

万が一の事故や急病人の発生に備え、心肺蘇生法やAEDの使い方、熱中症予防の知識を習得した。

【日程】2019年5月から2020年1月の間で15日間

【会場】日本赤十字社埼玉県支部、越谷市中央公民館、市民会館おおみや、ウェスタ川越、武蔵浦和コミュニティセンター、さいたま市宇宙劇場

【講師】日本赤十字社埼玉県支部

【参加者数】1,137人

(2) リーダーシップ研修

リーダーを対象に実施。グループワークを中心とした実践的なトレーニングを通してチームをまとめるスキルや心構えを学んだ。

【日程】2019年6月から11月の間で6日間

【会場】ソニックシティ、ウェスタ川越、朝霞市民会館、浦和コミュニティセンター

【講師】一般財団法人東京マラソン財団

【参加者数】272人

(3) 選択型研修 ※研修一覧は202ページ参照

接遇、サポート、外国語、観光、安全など40種類の豊富なメニューから、ボランティア自身が関心のある研修を1つ以上選択して受講した。

【日程】2019年6月から12月の間で8日間

【会場】埼玉県県民健康センター、埼玉会館、浦和コミュニティセンター、ウェスタ川越、ソニックシティ

【参加者数】延べ11,065人



▲疲れ知らずの姿勢になるコツを習得中



▲手話で拍手

(4) 事前ボランティア体験

大会期間中の活動を想定して、イベントの案内やパンフレットの配布などのボランティア活動を体験。運営体制や暑さ対策など運営面の課題も検証した。

【日程】2019年7月から11月の間で9日間

【場所】朝霞駅周辺、大宮駅周辺、浦和美園駅周辺、埼玉スタジアム2002周辺、さいたま新都心駅周辺、狭山市駅周辺、川越駅周辺 など

【参加者数】428人

(5) バックステージツアー

さいたまスーパーアリーナ及び埼玉スタジアム2002では、普段見ることのできないロッカールームやVIPルームなどを見学。霞ヶ関カンツリー倶楽部では、競技と会場を知る講義に加え、日本ジュニアゴルフ選手権を見学。射撃が行われる陸上自衛隊朝霞訓練場では、敷地内にある自衛隊体育学校を見学し、射撃競技のルールや魅力を学んだ。

【日程】2019年8月から11月の間で8日間

【会場】さいたまスーパーアリーナ、埼玉スタジアム2002、霞ヶ関カンツリー倶楽部、自衛隊体育学校

【参加者数】610人



▲埼玉スタジアム2002



▲自衛隊体育学校

(6) 車いす・白杖体験研修

車いすの操作や補助、白杖を使用した歩行などを体験することで、不便に感じるポイントを学んだ。

【日程】2019年11月から12月の間で4日間

【会場】さいたま新都心駅前

【講師】さいたま新都心ふれあいプラザ職員

【参加者数】91人

(7) e ラーニング

動画を視聴し、オリンピック・パラリンピックの歴史、東京2020大会の概要、ダイバーシティ&インクルージョン、サポート方法など活動時に役に立つ知識を習得した。

また、e ラーニングを補完する「City Cast HANDBOOK」を配布し自宅での学習に役立ててもらった。

【日程】2019年12月～2020年4月

【受講者数】3,779人

2020年度

(1) 動画研修「活動場所を知る」

新型コロナウイルスの流行により、現地を直接確認する実地研修に代えて、YouTube(限定公開)で動画を配信。大会本番での活動をイメージできるよう集合・活動場所、競技会場までのルート、活動内容などを紹介した。

動画の制作に際し、県出身のパラリンピアンが監修・出演。活動場所ごとに助言を受けた。

【日程】2020年9月～2021年9月

【監修】千葉 祇暉氏

【視聴回数】延べ6,753回

(2) 普通救命講習

講習時間の短縮、検温・消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの確保など感染予防を徹底して実施。心肺蘇生法の実技では、人形は1人1体、感染リスクが高い人工呼吸は実施しないなど講習内容も見直した。

【日程】2020年10月から12月の間で8日間

【会場】日本赤十字社埼玉県支部、朝霞市民会館

【講師】日本赤十字社埼玉県支部

【参加者数】181人



▲感染対策を徹底して実施

2021年度

(1) 大会直前研修

ユニフォーム着用のルールや活動内容・場所・当日の流れなどを具体的に知る研修。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、動画配信や資料配布により実施した。

【日程】2021年6月～7月

(2) リーダー実務研修

リーダーを対象に、大会本番でリーダーが行う業務や必要な知識を習得するための研修を実施。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、動画配信や資料配布により実施。和光市のみ実地で開催した。

【日程】2021年6月～7月

(3) e ラーニング

2019年度の研修に加えてリーダーシップ研修を実施。

【日程】2021年4月～9月

【受講者数】1,132人

ワクチン接種

新型コロナウイルスの感染拡大防止を図るため、職域接種の枠組みでワクチンを確保。希望する都市ボランティア、職員などにワクチン(武田/モデルナ社製)の接種を行い、安心・安全な活動の実施を図った。

【日程】2021年7月8日(木)～11日(日)

2021年8月8日(日)～11日(水)

【会場】自治人材開発センター

【人数】1,400人



▲ワクチン接種の様子

大会期間中の都市ボランティアの活動

延べ2,448人がおもてなし

オリンピック開会まで15日と迫った2021年7月8日、県内の会場は全て観客を入れずに開催することが決定された。しかし、3年近く大会に向けて研鑽を続けてきた都市ボランティアに大会に関わっていただくため、当初予定していた活動に代えて「大会の盛り上げ」「選手の応援」「埼玉のPR」を3つの柱とした新たな活動を行うこととした。同じく、8月16日に無観客開催が決定したパラリンピックと合わせて、合計1,380人、延べ2,448人が活動に参加し、大会を盛り上げた。

無観客開催の決定後の新たな活動

県内会場の無観客開催が決まり活動の機会がなくなった後も都市ボランティアからは、何らかの形で大会に関わる活動をしたいと熱い思いが寄せられた。そこで、引き続き大会に携わってもらうための新たな活動として「大会の盛り上げ」「選手の応援」「埼玉のPR」を3つの柱として、ユニフォームを着用して参加できる活動を行うこととした。

3つの柱による新たな活動

活動	主催	参加人数
選手の歓迎・応援、清掃活動	県	1,200人
メッセージ写真の展示	県	940人
県内おすすめスポット紹介	県	64人
Yell for one (エール・フォー・ワン)	ボラサポ※1	45人
バーチャルツアー	ボラサポ・Airbnb※2	10人
七夕装飾による発信	狭山市	189人
合計		2,448人

※1 日本財団ボランティアサポートセンター

※2 Airbnb Japan

選手の歓迎・応援、清掃活動

オリンピック・パラリンピック期間を通して、県内の会場で競技が行われる日に活動（台風で活動を中止した日を除く）。計86回、延べ1,200人が参加した。

(1)活動内容

- 会場へ来場する選手や大会関係者を、会場周辺で横断幕や小旗、手作りグッズを用いて歓迎・応援する
- 会場周辺の清掃活動を行い、きれいな会場で選手や大会関係者をお迎えする

(2)感染症予防対策・暑さ対策

都市ボランティアが安心・安全に活動できるよう感染防止対策を徹底するとともに、万全な暑さ対策も実施した。

- 受付時の体温測定、健康管理チェックシートによる健康状態の確認
- マスクの常時着用、手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保、集合場所・共用品の消毒、こまめな換気など基本的な対策の徹底
- マスク着用で酷暑の中活動することを踏まえ、活動時間の調整、水分補給の呼び掛け、冷房付き仮設集合場所の設置など熱中症対策を徹底

(3)タイムスケジュール

現地活動は暑さを考慮して30分以内とした。

タイムスケジュール(例)

時間	内容
7:30～8:00	受付・健康チェック・手指の消毒
8:00～8:15	ミーティング(活動内容説明)、移動
8:15～8:45	選手の歓迎・応援、清掃活動
8:45～9:00	記念撮影、移動、あいさつ、解散

(4)都市ボランティアの反応

- 短時間でもユニフォームを着用して他の仲間と一緒に活動ができてよかった
- 参加できて一生の思い出になった。今後もボランティアを続けるモチベーションにつながった
- 会場の近くで選手を実際に見ることができ、大会を体感して、とても気分が高揚した
- オリンピック・パラリンピックは、人生で2回目の経験だが、前回より大変身近に感じた
- 「またボランティアを一緒にしましょう」と、当日知り合った方と言って別れた。都市ボランティアという「人材」を「レガシー」に、と願う

活動実績

会場	実施回数	参加人数
さいたまスーパーアリーナ	38回	707人
埼玉スタジアム2002	7回	70人
霞ヶ関カンツリー倶楽部	15回	176人
陸上自衛隊朝霞訓練場(オリンピック期間)	14回	131人
陸上自衛隊朝霞訓練場(パラリンピック期間)	12回	116人
合計	86回	1,200人



▲さいたまスーパーアリーナでの活動



▲笑顔で大会を盛り上げた

メッセージ写真の展示

「選手への応援」大会の盛り上げ「埼玉のPR」をテーマに、都市ボランティアが作成したメッセージ写真を街頭ビジョンやデジタルサイネージ、ホームページで公開し、大会を盛り上げた。写真は、競技会場のさいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002、霞ヶ関カンツリー倶楽部で撮影したほか、オンラインでも募集し、延べ940枚のメッセージ写真が寄せられた。

展示場所

【街頭ビジョン】

さいたま新都心駅前大型ビジョン、埼玉県県民活動総合センター大型ビジョン、浦和駅西口デジタルサイネージ、浦和駅中ノ島地下通路デジタルインフォメーションウォール、多言語対応地図案内板(大宮駅西口、大宮公園駅前、土呂駅東口)、ステラタウンステージ大型ビジョン、さいたま市各区役所催事情報システム(10カ所)、さいたま市各区役所番号表示画面(8カ所)

【デジタルサイネージ】

さいたま市役所、川越市役所、川越運動公園総合体育館、狭山市役所、狭山市市民交流センター、朝霞市役所、新座市役所



▲さいたま新都心駅前大型ビジョン

県内おすすめスポット紹介

埼玉の魅力を発信するため、都市ボランティアのおすすめスポットを写真とそのポイントを合わせて募集した。オンラインで延べ64件(25市町村)の応募があり、取りまとめたホームページで公開した。



▲地元のおすすめスポットが多数紹介された

Yell for one (エール・フォー・ワン)

日本財団ボランティアサポートセンター主催の、国歌で出場選手にエールを届けるプロジェクト。6人1グループが個人で撮影した動画と、東京混声合唱団の歌声を合わせて1つの動画として編集した。45人が参加し、36の国と地域の国歌を歌った。

バーチャルツアー

日本財団ボランティアサポートセンターとAirbnb Japan共同実施の、地域の魅力や東京2020大会の雰囲気伝えるオンライン観光案内。国内外の方に、「さいたまスーパーアリーナと埼玉スタジアム2002周辺のガイドブックにはない隠れた魅力」と「埼玉の祭り・パワースポットとしての神社」を発信した。10人が参加し、54人を案内した。

七夕装飾による発信

狭山市の夏の風物詩である七夕装飾を活用。選手への応援メッセージを書いた短冊や七夕装飾の魅力をデジタルサイネージやSNSで発信、延べ189人が参加した。

サンクスセレモニー

大会終了後、大会を盛り上げてくれた都市ボランティアとホストファミリーに感謝の気持ちを伝えるサンクスセレモニーを開催した。感染症の状況を踏まえて、YouTubeのライブ配信を用いてオンラインで2回開催した。各回、都市ボランティア2名、ホストファミリー1家庭が出演し、大野元裕知事とゲストの三宅宏実選手(ウエイトリフティング女子日本代表)、稲村亜美さん(SAITAMA PRIDE スペシャルPRサポーター)から感謝状と記念品を贈呈。研修や活動の思い出を動画やトーク、クイズで振り返った。また、県内のボランティア団体を紹介し、継続的な地域活動への参画を促す会とした。

(1)日時

2021年9月18日(土)
①13:00～14:30 ②17:00～18:30

(2)対象人数

都市ボランティア 3,101人
ホストファミリー 595人



▲大野知事とゲストの2人から感謝状と記念品が贈呈された



▲それぞれの活動の思い出を語るボランティア

埼玉県版ホームステイからオンライン交流@埼玉へ

大会に出場する海外選手の家族や大会関係者をゲストとしてお迎えする「埼玉県版ホームステイ」。県内671のホストファミリーは様々な研修を受け、駐日大使館職員などのホームステイ受け入れを開始するなど準備を進めてきた。新型コロナウイルス感染症の影響により大会本番の実施を見送ったものの、コロナ禍でも海外ゲストと交流したいというホストファミリーの思いに応えるため、安心・安全に交流できる「オンライン交流@埼玉」を実現した。

ホストファミリーの募集

大会を契機とした県の魅力発信や県民と海外の人々との絆づくりを目的に、海外の大会関係者をゲストとして迎える「埼玉県版ホームステイのホストファミリー」を募集した。

【募集期間】
2018年8月17日(金)から11月30日(金)まで

【募集結果】
671家庭から応募があった。

【事業の概要(当初予定)】



実施期間	2019年4月から2021年9月まで
宿泊人数・日数	3人・3泊まで
ゲスト	・東京2020大会に参加する選手の家族 ・大会関係者(NOC※、NPC※、NF※関係者、海外の報道機関関係者、海外から参加する大会ボランティア)
ホストファミリー	応募の主な条件 ①家族全員でゲストを歓迎できること ②埼玉県在住であること ③単身世帯でないこと ④食事提供が可能であること ⑤ゲスト用に1部屋提供が可能なこと 等

※NOC…各国オリンピック委員会 NPC…各国パラリンピック委員会
NF…各国競技連盟

受け入れ実績

2019年4月から、駐日大使館や海外メディア関係者へ向けて、ホームステイのPRと県内競技会場、観光地の視察を兼ねて事業を開始。2019年度はホストファミリー78家庭が42カ国111人の外国人ゲストを受け入れた。

回数	日程	内容	国数	参加者数	ホスト件数
第1回	2019年 5月25日(土)～26日(日)	さいたま市岩槻区内観光、埼玉スタジアム2〇〇2視察	12	17	13
第2回	2019年 8月 2日(金)～ 4日(日)	ブラジル少年野球チーム受け入れ	1	16	8
第3回	2019年 8月16日(金)～17日(土)	霞ヶ関カンツリー倶楽部視察、秩父地域観光	12	16	13
第4回	2019年 8月24日(土)～25日(日)	さいたまスーパーアリーナ視察、川口市、草加市、越谷市内観光	10	12	10
第5回	2019年 9月 7日(土)～ 8日(日)	秩父地域観光	12	19	13
第6回	2019年10月 5日(土)～ 6日(日)	行田市、熊谷市内観光、埼玉スタジアム2〇〇2視察	10	15	11
第7回	2020年 1月11日(土)～12日(日)	さいたまスーパーアリーナ視察、桶川市及び川島町内観光	11	16	10
合 計			42※	111	78

※各回の参加国は重複があるため、合計とは一致しない。(42カ国内訳は以下の通り)

①アフガニスタン ②アメリカ ③イギリス ④イラク ⑤インド ⑥インドネシア ⑦ウガンダ ⑧エルサルバドル ⑨オーストラリア ⑩オランダ
⑪カナダ ⑫韓国 ⑬ギリシャ ⑭コンゴ ⑮コロンビア ⑯スペイン ⑰スリランカ ⑱スロバキア ⑲タイ ⑳中国 ㉑ドイツ ㉒トルコ
㉓ナイジェリア ㉔ニカラグア ㉕ネパール ㉖ハイチ ㉗パングラデシュ ㉘フィリピン ㉙ブラジル ㉚ベトナム ㉛ペルー ㉜ベルギー
㉝ポーランド ㉞ホンジュラス ㉟マラウイ ㊱南アフリカ ㊲ミャンマー ㊳モルディブ ㊴ヨルダン ㊵リトアニア ㊶ルーマニア ㊷レバノン

研修

ホームステイでのゲスト受け入れが初めての家庭でも安心して参加できるよう、必要な知識を学ぶ研修を実施した。

(1) 基礎研修(2019年1月から3月まで)

【テーマ】ホームステイの基本的な心構え、ホームステイ体験談など

【会場】県内5カ所(さいたま市、行田市、川越市、朝霞市、春日部市・計8回)

【参加者数】延べ772人

(2) 専門研修(2019年1月から3月まで)

※基礎研修と同時開催

【テーマ】ハラル対応、食事への配慮など

【参加者数】延べ650人

(3) テーマ別研修(2019年6月)

【テーマ】緊急時対応、異文化理解

【会場】県内2カ所(さいたま市、川越市・計4回)

【参加者数】延べ297人



▲外国人とのコミュニケーション方法について学んだ



▲長瀬のラインくだりを体験

ホームステイの実施見送り

2020年3月、新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020大会の1年延期が決定された。

県では、コロナ禍におけるホームステイ実施について、ホストファミリーへのアンケート調査や過去に参加した海外ゲストへの意見聴取を行い、その結果を参考にしながら慎重に検討を進めた。

2021年に入っても新型コロナウイルス感染症の世界的拡大は収束せず、3月には海外観戦客の受け入れ中止が正式に決定された。

こうした状況を受け、2021年4月、「埼玉県版ホームステイ」の実施見送りを決定した。

安心・安全な交流へ～オンライン交流@埼玉

コロナ禍でも海外ゲストと交流したいというホストファミリーの思いを受け、安心・安全に交流できる方法を検討した結果、オンラインでの交流を行うことを決定した。

【試験の実施(2020年12月～2021年3月)】

ホストファミリー・ゲスト双方のニーズや課題を検証するため、試験的にオンライン交流を行った。複数のホストファミリーとゲストが一緒に交流する形や1対1など様々なパターンで計20回実施。延べ127のホストファミリーと20カ国延べ65人のゲストが参加した。

【オンライン交流@埼玉 概要】

参加対象者	・「埼玉県版ホームステイ」登録ホストファミリー ・東京2020大会に参加する選手 ・大会関係者(NOC、NPC、NF)、大使館職員等
日程・内容	○2021年5月～7月(大会前)オンラインミーティング ホストファミリーとゲストが知り合う場とし、大会中の交流につなげる。 ○2021年7月～9月(来日中)オンライン交流 出場直前、直後のゲストとホストファミリーをオンラインでつなぎ、激励や結果報告を行う。 ○2021年9月～(大会後)オンライン交流 ホストファミリーと海外ゲストとの再会の場を設け、大会後も続く関係構築を目指す。 ○2021年9月18日 サンクスセレモニー 埼玉県版ホームステイ、オンライン交流@埼玉に参加したホストファミリーに感謝の意を表する。



▲駐日大使館職員とホストファミリー

事前説明会

(2021年4月25日(日)、4月28日(水))

「オンライン交流@埼玉」の概要や交流の実施方法についての事前説明会を、ホストファミリーを対象にオンラインで開催。延べ26家庭が参加したほか、YouTubeで動画を公開した。



▲メッセージを掲げてオンラインで歓迎

交流実績

大会出場選手の激励会や選手村からのオンライン交流など実際のオリンピック・パラリンピアンとの交流も実現。日本文化や埼玉の祭りの紹介も行い、25カ国延べ265人の海外ゲストが延べ283家庭のホストファミリーと交流した。



▲コンゴ共和国の国旗を持ってパラリンピックチームを激励

【交流実績一覧】

回数	日程	内容	ゲスト		ホストファミリー
			国数	参加者数	家庭数
第 1 回	2021年 5月23日(日)	オンラインミーティング	2	2	9
第 2 回	2021年 5月28日(金)	オンラインミーティング	12	53	21
第 3 回	2021年 6月12日(土)	オンラインミーティング	2	31	15
第 4 回	2021年 6月25日(金)	オンラインミーティング	7	35	21
第 5 回	2021年 7月 3日(土)	オンライン交流(スリランカオリチーム激励会)	1	15	17
第 6 回	2021年 7月 3日(土)	オンライン交流(コンゴ共和国パラチーム激励会)	1	8	24
第 7 回	2021年 7月14日(水)	オンライン交流(バーレーンオリチーム激励会)	1	4	15
第 8 回	2021年 7月16日(金)	オンラインミーティング	3	3	11
第 9 回	2021年 7月24日(土)	オンライン交流(ベネズエラバレーボール(男子)観戦会)	1	45	23
第10回	2021年 7月29日(木)	オンライン交流(豪オリ柔道チーム結果報告会)	1	4	22
第11回	2021年 8月 8日(日)	オンライン交流(レソトパラチーム激励会)	1	4	19
第12回	2021年 8月12日(木)	オンライン交流(イラクパラチーム激励会)	1	15	15
第13回	2021年 8月16日(月)	オンライン交流(フィリピンパラチーム激励会)	1	12	15
第14回	2021年 8月25日(水)	オンライン交流(モルディブパラチーム激励会)	1	7	11
第15回	2021年 9月 4日(土)	オンライン交流(コンゴ共和国パラチーム結果報告会)	1	10	17
第16回	2021年10月16日(土)	オンライン交流(バーレーンオリチーム結果報告会)	1	2	13
第17回	2021年10月24日(日)	オンライン交流(レソトパラチーム結果報告会)	1	7	9
第18回	2021年10月29日(金)	オンライン交流(フィリピンパラチーム結果報告会)	1	8	6
合 計			25※	265	283

※各回の参加国は重複があるため、合計とは一致しない。(25 カ国内訳は以下の通り)

①イラク ②エチオピア ③オーストラリア ④ケニア ⑤コートジボワール ⑥コロンビア ⑦コンゴ共和国 ⑧スリランカ ⑨セルビア
⑩ソロモン諸島 ⑪ネパール ⑫バーレーン ⑬ハイチ ⑭フィリピン ⑮ブータン ⑯ベトナム ⑰ベナン ⑱ベネズエラ ⑲ペルー ⑳ベルギー
㉑マラウイ ㉒ミャンマー ㉓モルディブ ㉔モロッコ ㉕レソト

サクスセレモニー(2021年9月18日(土))

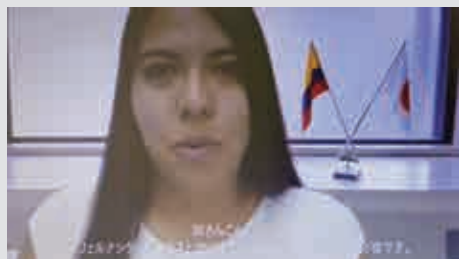
都市ボランティアと合同で開催。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、YouTube でオンライン配信された。セレモニーでは、代表して2組のホストファミリーが出演し、知事から感謝状が贈呈されたほか、海外ゲストとの思い出を披露した。その他、これまでの交流を振り返る映像や過去に参加した海外選手団や大使館関係者からのビデオメッセージも上映された。



▲海外ゲストとの思い出を語るホストファミリー



▲大野知事から感謝状を贈呈されるホストファミリー



▲メッセージを寄せるコロンビア大使館の外交官

事前トレーニングキャンプの歩み

大会直前に多くの海外選手団が行う事前トレーニングキャンプ。気候順応や時差調整を行うことでコンディションを整え、万全の体制で大会に臨むという狙いがある。

市町村にとっても、有名アスリートを地元を迎え入れることでのシティプロモーションや、市民と選手との交流による貴重な経験、大会気運の醸成など様々なメリットが見いだせることから、県内でも多くの市町村が誘致活動を展開し、決定に結び付いた。

埼玉県の役割

事前キャンプは受け入れ市町村が海外選手団と交渉し、双方が合意することで誘致が実現するものである。

しかしながら、ほとんどの市町村にとってキャンプ誘致が未経験の業務であること、海外選手団と接点がなく、アプローチの方法が分からないことなど、非常にハードルが高いものであった。

そこで、県が市町村に代わって海外選手団にアプローチし、ニーズが合致する市町村をマッチングする役割を担った。また、視察や交渉の場にも同席し、市町村をフォローアップした。

誘致活動

(1)市町村の意向確認、現地調査

キャンプ誘致は市町村にその意向があることが前提となるため、5回にわたって市町村に意向確認を行った。意向ありと回答した市町村には県担当者が訪問し、トレーニング施設の調査や受け入れ希望の国及び競技のヒアリングなどを実施した。

(2)パンフレット、特設サイトの作成

効果的な PR を行うため、埼玉県の概要や県内事前キャンプ候補地などを掲載したパンフレットと特設サイトを作成。パンフレットは英語版、サイトは4言語版(英語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語)と多言語で作成した。



▲事前キャンプガイド表紙

▲県特設サイトの事前キャンプ紹介ページ

(3)海外選手団、駐日大使館へのプロモーション

事前キャンプ地の決定権限を持つ各国のオリンピック委員会(NOC)、パラリンピック委員会(NPC)、競技連盟(NF)の他、日本における連絡窓口である駐日大使館に対し、様々なプロモーション活動を行った。

駐日大使館ツアー

特命全権大使をはじめとする大使館職員が県内施設を視察しまた誘致意向のある市町村と直接意見交換を行って得た情報をNOCなどに伝えていただくことを目的として開催。中南米5カ国(2017年2月15日開催)と、ASEAN6カ国(2017年8月22日開催)の2回のツアーを実施した。



▲中南米5カ国の特命全権大使等が参加した視察ツアー

国際大会の場での直接 PR

平昌冬季オリンピックや柔道グランドスラムなど各国のNOC、NF 関係者が集う国際大会の場に県担当者が出向き、直接 PR を行った。



▲平昌冬季オリンピック競技会場でプロモーションを実施

市町村視察から事前キャンプ決定まで

(1) NOC などによる市町村視察

事前キャンプに興味を示した NOC などの幹部が国際大会や会議などで来日した際に、県内施設を視察してもらい、誘致希望の市町村と意見交換を行った。これら県内視察を行った国は29カ国にものぼった(代理人による視察を含む)。

(2)誘致実現に向けた直接交渉

視察や意見交換を経て、NOC などが前向きな姿勢を示した場合、具体的な交渉がスタートする。内容は、練習施設が国際基準に適合しているかといった専門的な事柄から、施設の独占利用の可否や事前キャンプにかかる費用の負担、市民との交流の可能性など多岐に渡り、相手国のシビアな要求により、交渉が暗礁に乗り上げることも多くあった。



▲富士見市体育館を視察するセルビアNOC



▲トルコブラインドサッカー(5人制サッカー)チームと交渉を進める本庄市

(3)事前キャンプの決定

交渉内容が大筋で合意に至ると、覚書や協定書が締結された。締結式では相手国の責任者と知事、市町村長、大学など関係団体の代表者が揃って調印する形式が多く取られ、様々なメディアにも取り上げられた。

県内では21件の事前キャンプが決定し、大会直前に県内の多くの市町村で事前キャンプが行われることが期待された。

事前トレーニングキャンプの決定実績

	自治体・関係団体	相手国	競技	決定日
1	寄居町	ブータン	陸上	2016年10月14日
2	さいたま市	オランダ	空手	2016年12月11日
3	県・新座市・立教学院	ブラジル	陸上など	2017年 6月25日
4	県・所沢市・早稲田大学	イタリア	陸上、水泳、フェンシングなど	2017年10月19日
5	鶴ヶ島市	ミャンマー	陸上、水泳、柔道	2017年10月25日
6	本庄市・早稲田大学	トルコ	5人制サッカー パラテコンドー	2018年10月 4日 2021年 1月20日
7	県・上尾市・伊奈町	オーストラリア	柔道	2018年11月20日
8	県・加須市・佐藤栄学園	コロンビア	陸上、ウエイトリフティングなど	2018年11月26日
9	三芳町・淑徳大学	オランダ	柔道	2019年 1月17日
10	越谷市	ポルトガル	卓球	2019年 2月 9日
11	川越市	タイ	空手	2019年 2月14日
12	草加市	コロンビア	パラ水泳	2019年 3月21日
13	秩父市	コロンビア	BMX	2019年 4月18日
14	富士見市	セルビア	レスリング、ハンドボール	2019年 7月10日
15	東松山市・大東文化大学	キューバ	レスリング、テコンドーなど	2019年 8月23日
16	三郷市	ギリシャ	陸上	2019年11月25日
17	戸田市	オーストラリア	カヌー	2019年12月 3日
18	北本市	アルジェリア	パラ柔道など	2019年12月18日
19	三芳町	マレーシア	パラ陸上、パラアーチェリー	2020年 1月15日
20	戸田市	ルーマニア	ボート	2021年 4月19日
21	深谷市	トルコ	バレーボール(女子)	2021年 6月16日



▲柔道オーストラリアとの覚書締結式

2019年以前に行われた事前合宿

(1)事前合宿について

多くのNOCなどは、大会本番時の事前キャンプを見据えたテストを兼ね、日本やアジア圏で開催される国際大会の直前に事前合宿を希望した。市町村にとっても絶好のシミュレーションとなることから、積極的に受け入れに応じたところ、2019年までに9カ国22件の事前合宿が実施された。

(2)市民との交流

事前合宿の間には、選手が地元小学校を訪問して、児童と一緒に給食を食べたり、市民水泳大会に選手がエキシビジョンで参加するなどといった、多彩な交流が実現した。

結果的に、大会直前の事前キャンプでは直接触れ合う交流ができなかったため、この時の交流が県民にも選手団にとっても貴重な経験になった。

事前合宿の実績(22件:9カ国 県と12市町)

	相手国	競技	日程	自治体	目的
1	ブータン	陸上	2016年5月 9日～14日	寄居町	強化合宿
2		陸上	2017年5月17日～22日		強化合宿
3		陸上	2019年7月30日～ 8月4日		強化合宿
4	オランダ	空手	2018年10月 8日～ 10日	さいたま市	空手1プレミアリーグ
5		空手	2019年9月 1日～ 5日		空手1プレミアリーグ
6		柔道	2019年4月 8日～13日	三芳町	強化合宿
7		柔道	2019年8月19日～25日		世界柔道
8	ブラジル	テコンドー	2017年6月13日～19日	新座市	世界選手権
9		陸上(リレー)	2019年5月 1日～ 9日		世界リレー
10		マラソンスイミング	2019年7月 2日～ 9日		世界水泳
11		空手	2019年8月26日～ 9月4日		空手1プレミアリーグ
12	イタリア	陸上(競歩)	2018年4月11日～26日	所沢市	世界選手権
13		競泳	2019年7月10日～18日		世界水泳
14		陸上(競歩)	2019年7月25日～ 8月2日		強化合宿
15	ミャンマー	陸上、柔道	2019年8月26日～ 9月2日	鶴ヶ島市	強化合宿
16	トルコ	5人制サッカー	2019年3月 9日～16日	本庄市	ワールドグランプリ
17	オーストラリア	柔道	2019年1月13日～26日	上尾市 伊奈町	強化合宿
18		柔道	2019年8月18日～24日		世界柔道
19	コロンビア	ウエイトリフティング	2018年10月 9日～28日	加須市	世界選手権
20		レスリング	2019年3月 3日～17日		強化合宿
21		パラ水泳	2019年9月17日～10月1日	草加市	強化合宿
22	タイ	空手	2019年8月14日～18日	川越市	空手1プレミアリーグ



▲寄居町の高校生と合同練習を行うブータン陸上チーム



▲三芳町の中学生と一緒に給食を食べるオランダ柔道選手

コロナ禍での事前キャンプ受け入れに向けて

新型コロナウイルス感染症の影響により、大会が1年延期となったことで、受け入れ市町村は事前キャンプ準備の大幅な見直しを余儀なくされた。

また、コロナ禍での海外選手団受け入れを見据え、内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局が主導し、様々な対策を講じていくこととなった。

(1)相手国との再交渉

いくつかの国から事前キャンプ実施の意向が示される一方、特にパラリンピック競技において、新型コロナウイルス感染による選手の重症化リスクを懸念し、事前キャンプ実施見合わせを決断する国もあった。

また、感染拡大による相手国内の混乱で、相手国から連絡が来ず、交渉が進まないといった事例も多く発生した。

(2) コロナ禍での事前キャンプを見据えた準備

【市町村の対応】

選手団の入国から選手村入村までの全ての場面における感染症対策を講じた受入れマニュアルを作成し、相手国と事前合意すること、また、事前キャンプ中、それを完全に遂行することが求められた。

更に、事前キャンプ中に選手団や受け入れスタッフ、地域住民などから陽性者が発生してしまった場合を想定し、保健所や医療機関との調整を進めた。

【県の対応】

市町村や大学など関係機関職員に、新型コロナウイルスの理解を深めてもらうため、感染症学専門家による講演や、実効的な感染予防対策を施した事前キャンプ予定施設の視察などを実施した。

また、マニュアル作成の参考となるよう、場面ごとの感染症対策や選手団の健康管理方法などを記した原案を独自に作成し、市町村に提供した。

その他、保健所や選手団が宿泊予定のホテルなどから、コロナ禍での受け入れを不安視する意見も多くあったことから、保健所長やホテル責任者に対して、事前キャンプ受け入れに改めて御協力いただけるよう依頼を行った。



▲感染予防対策を講じた練習施設を視察



▲県内の保健所長に事前キャンプ受け入れの協力依頼を実施

このように入念な準備を進めてきたものの、協力予定だった関係機関の受け入れ断念など様々な理由により、事前キャンプの中止や規模縮小が発生し、最終的に県内で実施された事前キャンプは9件(8カ国、9市町)であった。

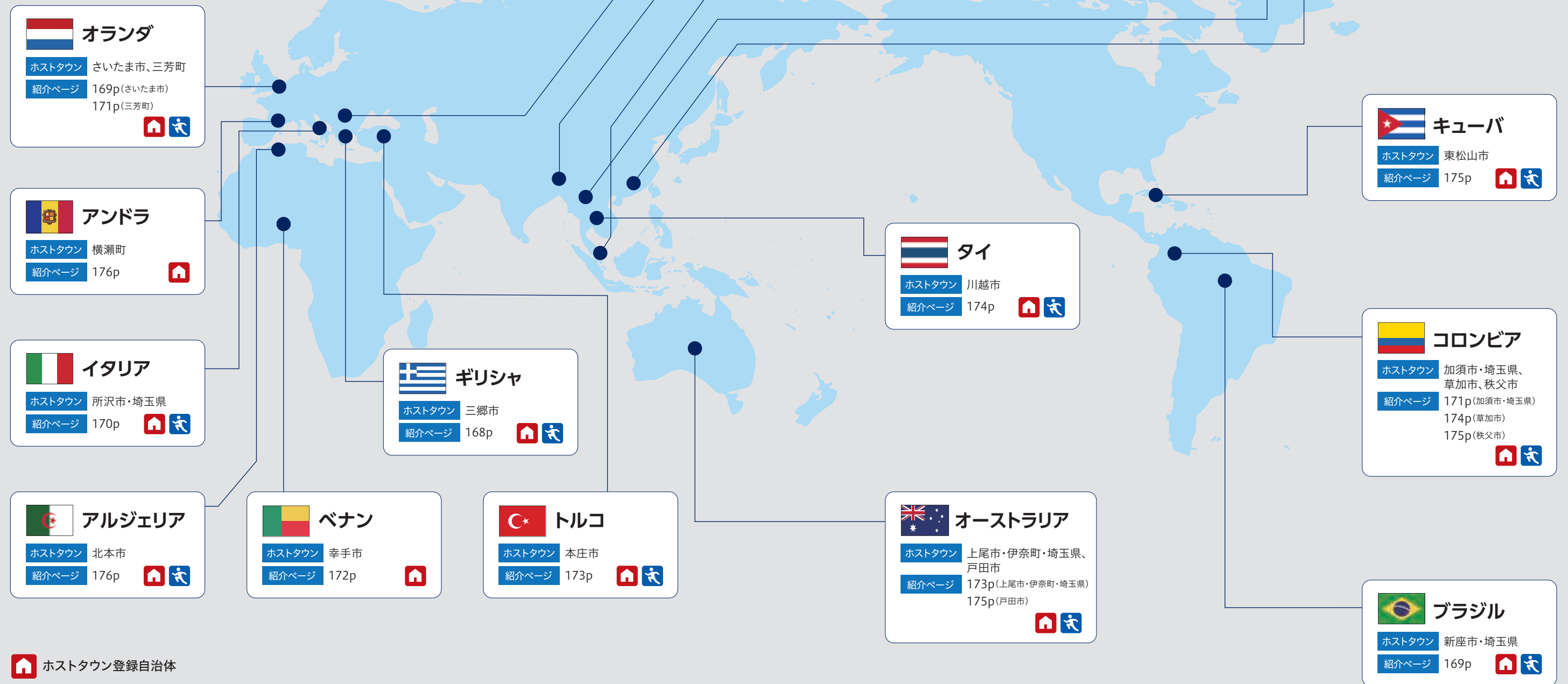
しかしながら、事前キャンプ中の市町村職員の献身的な対応、感染予防対策における選手団の協力などにより、県内の事前キャンプでは選手団や市町村職員、地域住民から一人の感染者も発生させず、無事に終了することに成功した。

ホストタウン

世界各国との交流

「ホストタウン」とは、東京2020大会に向けて、参加国・地域と相互交流を図る地方公共団体を国が登録する制度。県内では埼玉県と21市町が17カ国・地域のホストタウンに登録された。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大以前は、国際大会で来日した海外選手団や駐日大使館職員などと直接的な交流を実施してきた。コロナ禍においてはオンライン交流など創意工夫を凝らした企画が実現。大会終了後も引き続き交流を行っていく予定である。

■ 埼玉県ホストタウン登録自治体一覧



[家] ホストタウン登録自治体
[人] 事前トレーニングキャンプ受け入れ自治体

ブータン × 寄居町

DATE ホスタウン登録 2016年 6月
事前トレーニングキャンプ決定 2016年10月

オリンピックの為末氏から紹介を受け、ブータンとの交流がスタート。2016年には同国王子が来訪し、市民との交流を深めた。2018年にはクラウドファンディングを行い、ブータンで初となる陸上全国大会の実現を支援し、県立寄居城北高等学校陸上部員2名が大会に参加。2019年には陸上チームが来訪し同校との合同練習が行われた。



▲ブータン陸上全国大会に出場した寄居城北高等学校の生徒



▲同国王子殿下が寄居町を訪問



▲町民と陸上選手がオンライン交流



▲弓道に挑戦する陸上選手



▲陸上チームと寄居城北高等学校の合同練習が実現

ブータンの概要

面積 約3.8万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約75万人 オリンピック 0 0 0
首都 テンブー パラリンピック 0 0 0
言語 ゾンカ語等



ギリシャ × 三郷市

DATE ホスタウン登録 2016年 6月
事前トレーニングキャンプ決定 2019年11月

駐日大使館と「みさとシティハーフマラソン」をはじめとするスポーツ交流を行っている縁で陸上チームの事前キャンプが決定。市内全ての小中学校を大使館職員が訪問し、同国の文化や歴史を教える授業を行ったり、ギリシャとのホスタウン記念マンホールを市内各地に設置するなど多彩な活動を実施した。



▲ホスタウン記念マンホール



▲市からの応援メッセージを受け取る陸上連盟



▲ギリシャとのオンライン交流



▲市内小学校で開講されたギリシャ語講座



▲マラソン勝者にオリーブ冠を贈呈する駐日大使

ギリシャの概要

面積 約13.2万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約1,071万人 オリンピック 2 1 1
首都 アテネ パラリンピック 1 3 7
言語 現代ギリシャ語



オランダ × さいたま市

DATE ホスタウン登録 2016年12月
事前トレーニングキャンプ決定 2016年12月

埼玉大学空手部の卒業生がオランダで空手の普及活動をしたことを契機にオランダとの交流がスタート。2016年に同国空手道連盟と事前キャンプに関する協定書を締結した。これまでに3回選手を受け入れたほか、市内には大使館から贈られたチューリップが植樹された。



▲市内に植えられたチューリップ



▲市空手道連盟選手を相手に激しい打ち合い



▲市立浦和高等学校空手部の練習に特別参加



▲「桜区民ふれあいまつり」でオランダの歴史をレクチャー

オランダの概要

面積 約4.2万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約1,755万人 オリンピック 10 12 14
首都 アムステルダム パラリンピック 25 17 17
言語 オランダ語



ブラジル × 新座市・埼玉県

DATE ホスタウン登録 2016年12月
事前トレーニングキャンプ決定 2017年 6月

ブラジル人を市職員に採用して市広報誌で同国文化を紹介したり、小学校で講座を実施しブラジルの魅力を発信した。2019年の世界リレーでは事前合宿を行った選手が金メダルを獲得。また、市内在学の中高生をブラジルユース大会に派遣するなどの交流も盛んに行われた。



▲2019年来訪したOWS*金メダリストのアナ選手
*OWS=オープンウォータースイミング



▲交流会に参加した児童にサインを書く陸上選手



▲陸上チームコーチが市内小学校を訪問



▲ユース大会でブラジルの中高生と交流

▲ブラジル人職員のグスタヴォ・ラモスさん

ブラジルの概要

面積 約851.2万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約2億947万人 オリンピック 7 6 8
首都 ブラジリア パラリンピック 22 20 30
言語 ポルトガル語



★ ミャンマー × 鶴ヶ島市

鶴ヶ島市

DATE ホストタウン登録 2017年 7月
事前トレーニングキャンプ決定 2017年10月

市在住の今泉清詞氏が約30年にわたりミャンマー支援を続けてきたことから友好関係が深まり、ホストタウンに登録された。ミャンマーの伝統行事を模した「鶴ヶ島水かけまつり」には駐日大使館職員らも参加し、ミニ龍蛇が練り歩くパレードのほか、民族舞踊が披露された。



▲市民と水をかけあう駐日大使館職員



▲強化トレーニングを行うミャンマー選手



▲「鶴ヶ島水かけまつり」で披露されたミニ龍蛇



▲ミャンマー祭りで伝統舞踊を児童が披露



▲陸上選手が市民と玉入れて競争

★ ミャンマーの概要

面積 約68万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約5,141万人 オリンピック 0 0 0
首都 ネーピードー
言語 ミャンマー語 パラリンピック 0 0 0



ミャンマー

★ コロンビア × 加須市・埼玉県

加須市

DATE ホストタウン登録 2017年12月
事前トレーニングキャンプ決定 2018年11月

2018年から2019年にかけて3回の事前合宿を受け入れた際には、選手の指導によるレスリング教室を行ったほか、ウェイトリフティング選手が脱穀を体験したり、児童が書いた漢字をお手本に書道に挑戦するなど様々な日本文化に触れてもらった。また、2018年に来訪したユース女子ラグビーチームには、市内の家庭にホームステイしてもらい、市民の方々との交流を深めた。



▲脱穀体験をするウェイトリフティング選手



▲選手からレスリングの指導を受ける児童



▲ユース女子ラグビー選手が1日ホームステイ体験



▲歓迎を受けるウェイトリフティングチーム



◀児童の手本を見ながら書道に挑戦

★ コロンビアの概要

面積 約113.9万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約5,034万人 オリンピック 0 4 1
首都 ボゴタ
言語 スペイン語 パラリンピック 3 7 14



コロンビア

★ イタリア × 所沢市・埼玉県

所沢市

DATE ホストタウン登録 2017年12月
事前トレーニングキャンプ決定 2017年10月

2018年の競歩チーム受け入れを皮切りに早稲田大学と連携して複数回にわたり選手団に練習環境を提供。練習の合間に市内小学校を訪問するなどして関係を深めてきた。また、イタリア料理グルメラリーや、イタリアオリンピック委員会の協力の下で市民のローマ訪問ツアーを実施するなど多彩な交流を進めた。



▲児童と給食を食べる競泳選手



▲学童クラブの児童と競争する競歩選手



◀イタリアカラーに装飾された早稲田大学学生寮



▲市内でトレーニング後、食事を楽しむ選手団

★ イタリアの概要

面積 約30.1万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約6,046万人 オリンピック 10 10 20
首都 ローマ
言語 イタリア語 パラリンピック 14 29 26



イタリア

★ オランダ × 三芳町

三芳町

DATE ホストタウン登録 2018年 4月
事前トレーニングキャンプ決定 2019年 1月

町内にある淑徳大学的女子柔道部監督の紹介により、柔道を通じた交流がスタート。これまで5回オランダ女子柔道選手を受け入れ、2019年の世界柔道では町職員が日本武道館に応援に駆け付けた。その他、町民等が応援サポーターとしてホストタウン事業の運営を行うなど町ぐるみでの盛り上げを行った。



▲世界柔道の試合後、観客席に選手がサプライズ登場



▲バスに乗った選手を手作りの国旗で歓迎



▲来訪中に誕生日を迎えた選手をお祝い



▲中学校での給食交流



▲町職員によるオランダ講座

★ オランダの概要

面積 約4.2万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約1,755万人 オリンピック 10 12 14
首都 アムステルダム
言語 オランダ語 パラリンピック 25 17 17



オランダ

ベナン × 幸手市

幸手市

DATE ホスタウン登録 2018年 8月

駐日大使との交流事業に関する合意書締結を契機にホスタウンに登録。「幸手市民まつり」には、駐日大使が招待され、市民にもベナン料理が振る舞われた。また、2019年にはアフリカ開発会議のために来日したベナン音楽家が来訪し、和太鼓クラブと両国の伝統音楽を披露し合うといった交流が行われた。



▲駐日大使館職員によるベナン講座



▲「幸手市民まつり」でベナン料理を提供



▲両国の伝統音楽を通じた交流



◀交流継続を願い千羽鶴を駐日大使館に贈呈

ベナンの概要

面積 約11.3万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約1,212万人 オリンピック 0 0 0
首都 ポルトノボ パラリンピック 0 0 0
言語 フランス語



ベナン

トルコ × 本庄市

本庄市

DATE ホスタウン登録 2018年12月 2021年 2月 (共生社会)
事前トレーニングキャンプ決定 2018年10月 (5人制サッカー)
2021年 1月 (パラテコンドー)

2019年にはトルコ5人制サッカーチームが事前合宿を行い、公開練習試合を開催。また、駐日大使夫妻が何度も市内小学校を訪問し特別授業を実施するなど、大使館との交流も盛んである。相手国との交流の思いを込めたホスタウンポスターではコンテストで全国1位を獲得した。



▲織物に挑戦する駐日トルコ大使夫人



▲コンテストで1位に輝いたポスター



▲トルコ対日本の5人制サッカー練習試合



▲トルコパラテコンドー選手団とのオンライン交流



▲市在住トルコ人による料理教室



▲児童が国内最大級のモスクを見学

トルコの概要

面積 約78.1万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約8,361万人 オリンピック 2 2 9
首都 アンカラ パラリンピック 2 4 9
言語 トルコ語



トルコ

セルビア × 富士見市

富士見市

DATE ホスタウン登録 2018年12月 2019年12月 (共生社会)
事前トレーニングキャンプ決定 2019年 7月

同国シャバツ市の姉妹都市であることが縁でホスタウンに登録。セルビア人を市職員に採用して市内小学校で同国文化を教える講座を実施したり、女子栄養大学と協力しセルビア風のパンの開発などに取り組んだ。また、2020年2月には、駐日大使を招待し卓球親善試合を開催するなど交流も盛んに行われた。



▲女子栄養大学と共同開発したセルビア風のパン「プロヤ」



▲卓球親善試合に出場した駐日大使



▲セルビア人職員のアナ・ロゴさん

セルビアの概要

面積 約7.7万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約693万人 オリンピック 3 1 5
首都 ベオグラード パラリンピック 2 3 1
言語 セルビア語



セルビア



▲セルビア出身ソプラノ歌手と児童が合唱を披露

オーストラリア × 上尾市・伊奈町・埼玉県

伊奈町
上尾市DATE ホスタウン登録 2019年 2月
事前トレーニングキャンプ決定 2018年11月

柔道チームとの事前キャンプ覚書締結を契機に、ホスタウンに登録。2018年のジュニア世代柔道チームの強化合宿の際には、両市町の小学生と交流を深めた。また、合宿中にチームコーチが交通事故で転倒した女性の人命救助を行い、警察から感謝状が贈呈された。



▲感謝状を贈呈される柔道チームコーチ



▲大柄の選手を相手に技を繰り出す児童



▲柔道ジュニア選手が上尾市柔道教室の児童と合同練習



▲ジュニアチームが伊奈町の小学校を訪問

オーストラリアの概要

面積 約769.2万km² 東京2020大会メダル獲得数
人口 約2,569万人 オリンピック 17 7 22
首都 キャンベラ パラリンピック 21 29 30
言語 英語



オーストラリア

タイ × 川越市

DATE ホストタウン登録 2019年 4月
事前トレーニングキャンプ決定 2019年 2月

以前から県在住タイ人と市民レベルでの交流が行われるなど同国と友好関係が築かれており、タイの旧正月に行う「水かけ祭り」を模したイベントは2010年から続けられている。また、2019年に実施した同国空手選手団の強化合宿では、市空手道連盟の児童たちに選手が直接指導するなどの交流を行った。



▲タイの旧正月に合わせて開催された「水かけ祭り」



▲川越氷川神社でおみくじに挑戦



▲代表選手から直々の指導を受ける市空手道連盟の児童



▲空手道連盟の児童が空手選手宛に書いた手紙



▲タイ人との給食交流

タイの概要

面積 約51.4万km²
人口 約6,641万人
首都 バンコク
言語 タイ語東京2020大会メダル獲得数
オリンピック 1 0 1
パラリンピック 5 5 8

タイ

コロンビア × 秩父市

DATE ホストタウン登録 2019年 6月
事前トレーニングキャンプ決定 2019年 4月

自転車競技の強豪国でもある同国 BMX レーシングチームの、国際基準を持つ「秩父滝沢サイクルパーク」での事前キャンプ決定を契機に、ホストタウンに登録。2019年以降、市内の小中学校では大使館職員によるコロンビア授業や、給食でコロンビア料理を提供するなど大使館と連携した交流が行われた。



▲市主催式典で挨拶をする駐日大使



▲熱心にコロンビア文化を学ぶ児童



▲ボテくまくんが練習中の選手を激励



▲市内小学校で振る舞われたコロンビア給食「アヒアコ」



▲応援動画を通じて市民から歓迎を受ける選手団

コロンビアの概要

面積 約113.9万km²
人口 約5,034万人
首都 ボゴタ
言語 スペイン語東京2020大会メダル獲得数
オリンピック 0 4 1
パラリンピック 3 7 14

コロンビア

コロンビア × 草加市

DATE ホストタウン登録 2019年 4月
事前トレーニングキャンプ決定 2019年 3月

2019年の同国パラ水泳選手団の強化合宿の際には、草加せんべいの手焼き体験や獨協大学生の案内による市内観光を企画し、市の歴史・伝統文化に触れる機会を提供した。また、市内水泳大会で選手が市民とのエキシビジョンマッチに参加したり、障害のある市民スイマーとの合同練習も行った。



▲草加せんべいの手焼き体験に挑戦



▲獨協大学生による市内観光



▲小学校で歓迎を受けるパラ水泳選手団



▲パラ水泳選手とのオンライン交流



▲駐日大使館職員との給食交流

コロンビアの概要

面積 約113.9万km²
人口 約5,034万人
首都 ボゴタ
言語 スペイン語東京2020大会メダル獲得数
オリンピック 0 4 1
パラリンピック 3 7 14

コロンビア

キューバ × 東松山市

DATE ホストタウン登録 2019年10月
事前トレーニングキャンプ決定 2019年 8月

2019年10月、ホストタウンに登録。市内小学校で駐日大使館職員による特別授業の実施や、キューバ料理を給食で提供するなど同国文化の魅力発信に努めた。



▲スポーツ大臣が市内の大東文化大学を視察



▲文化を紹介する駐日大使館職員



▲キューバ料理「ピカディーヨ」



▲キューバ料理を楽しむ児童

キューバの概要

面積 約11万km²
人口 約1,148万人
首都 ハバナ
言語 スペイン語東京2020大会メダル獲得数
オリンピック 7 3 5
パラリンピック 4 1 1

キューバ

オーストラリア × 戸田市

DATE ホストタウン登録 2019年12月
事前トレーニングキャンプ決定 2019年12月

1992年に同国リバプール市と姉妹都市になって以降、中高生を相互派遣するなど長年にわたり友好関係にあった。その縁から同国カヌーチーム関係者を紹介され、事前キャンプが決定、ホストタウンにも登録された。



▲オーストラリアの授業に参加する戸田市の中学生



▲リバプール市青少年団のウェルカムパーティー

オーストラリアの概要

面積 約769.2万km²
人口 約2,569万人
首都 キャンベラ
言語 英語東京2020大会メダル獲得数
オリンピック 17 7 22
パラリンピック 21 29 30

オーストラリア

アルジェリア × 北本市

北本市

DATE ホストタウン登録 2020年2月 2020年4月(共生社会)
事前トレーニングキャンプ決定 2019年12月

同国パラリンピック委員会との事前キャンプに関する協定締結を契機にホストタウンに登録。市内をアルジェリア国旗のフラッグで装飾し、PRを行った。また、駐日大使館職員を講師に迎え「子ども大学きたもと」を開催し、小学生を対象に同国文化の魅力発信に努めた。

▲市内に装飾されたフラッグ

▲「子ども大学きたもと」に参加した児童

アルジェリアの概要
面積 約238万km²
人口 約4,390万人
首都 アルジェ
言語 アラビア語
ベルベル語

東京2020大会メダル獲得数
オリンピック 0 0 0
パラリンピック 4 4 4

アルジェリア

マレーシア × 三芳町

三芳町

DATE ホストタウン登録 2020年2月 2020年3月(共生社会)
事前トレーニングキャンプ決定 2020年1月

同国ベタリングジャヤ市と姉妹都市であることが縁となり、2020年には町長がマレーシアを訪問、パラリンピック委員会との事前キャンプ協定を締結した。パラスポーツ体験イベントなどで、町民に同国の多民族文化を伝えるなど共生社会の推進にも取り組んだ。

▲短冊に応援の気持ちを込める児童

▲パラリンピアンとオンラインで交流

▲来町したパラリンピック委員会会長を歓迎

▲学校給食でマレーシア料理を提供

マレーシアの概要
面積 約33万km²
人口 約3,270万人
首都 クアラルンプール
言語 マレー語

東京2020大会メダル獲得数
オリンピック 0 1 1
パラリンピック 3 2 0

マレーシア

マカオ × 吉川市

吉川市

DATE ホストタウン登録 2020年12月

市国際友好協会会員と連携し、マカオとホストタウン登録について交渉し、2020年に登録された。マカオの魅力発信のため市役所内で「マカオとパラリンピック展」を開催。同国パラ選手に向けた応援メッセージ動画の撮影も行い、市職員や訪れた市民が数多く参加した。

▲「マカオとパラリンピック展」に訪れた市民

▲マカオとのオンライン交流会

マカオの概要
面積 約30.5万km²
人口 約68万人
首都 ー
言語 中国語
ポルトガル語

東京2020大会メダル獲得数
オリンピック 0 0 0
パラリンピック 0 0 0

マカオ

アンドラ × 横瀬町

横瀬町

DATE ホストタウン登録 2020年12月

アンドラの美しい山々に囲まれた自然豊かな景観が横瀬町に似ていることを契機として交流が始まり、2020年12月ホストタウンに登録。東京大会出場間近の女子カヌーオリンピック選手や唯一の在日アンドラ人とのオンライン交流を行った。

▲交流の記念に作成したホストタウン提灯

▲女子カヌー選手とのオンライン交流

▲町一丸となって作成した応援動画

アンドラの概要
面積 約468km²
人口 約7.8万人
首都 アンドラ・ラ・ベリャ
言語 カタルニア語

東京2020大会メダル獲得数
オリンピック 0 0 0
パラリンピック 0 0 0

アンドラ

都市装飾・スペクタキュラー

県内が東京2020大会仕様に

開催気運を盛り上げ、大会の祝祭感を高めるため、競技会場や会場最寄り駅周辺を大会統一デザインのバナーやラッピングシールなどで飾るとともに、大会マスコット「ミライトワ」と「ソメイティ」のモニュメントである「スペクタキュラー」を設置した。オリンピック・パラリンピックに彩られた街が、選手や大会スタッフ、ボランティアを出迎えた。

都市装飾

県と競技会場のある6市が協力し、競技会場や会場最寄り駅周辺、商店街などを大会の統一デザイン「コアグラフィックス」を用いたバナーやラッピングシール、横断幕などで装飾した。

コアグラフィックスには、デザインモチーフとして十二単に代表される色の組み合わせ「かさねの色目」が使用され、日本の伝統色である紅、藍、藤、松葉、桜の5色が基本色とされた。

大会の開催150日前(延期決定前)に当たる2020年2月25日には、開催気運を一層盛り上げるため、会場市街を5色のコアグラフィックスで彩る「シティドレッシング」を開始。大宮駅西口のソニックシティビルには、大会エンブレムをあしらった縦13メートル、横18メートルの大型ビルラッピングを行い、圧倒的な存在感で人々の目を引き付けた。

2021年5月下旬には会場最寄り駅から競技会場までの徒歩ルートを装飾する「ラストマイルドレッシング」を順次実施。「ベニユーカー」そして5色から競技会場ごとに色が指定され、バスケットボール会場・サッカー会場周辺は「紅」、ゴルフ会場・射撃会場周辺は「藤」で染め上げられた。



▲コアグラフィックスのシティドレッシング(朝霞駅東口)



▲ベニユーカーの藤色で彩るラストマイルドレッシング(笠幡駅前)

スペクタキュラー

大会マスコット「ミライトワ」、「ソメイティ」のモニュメント「スペクタキュラー」を12体製作し、シティドレッシングの開始に合わせて、2020年2月25日に県内9カ所に設置した。高さ1.5メートル、幅1メートル、奥行0.6メートルの大きさでフотスポットとして人気を集め、大会の広報大使として活躍した。

大会終了後は一部設置場所を移し、レガシーとして大会の記憶を伝える役割を担っている。

■スペクタキュラーの設置場所

	管理者	マスコット	大会前	大会中	大会後 (レガシー)
1	埼玉県	ミライトワ	さいたまスーパーアリーナ		
2		ミライトワ	埼玉スタジアム2〇〇2		
3	川越市	ミライトワ	鍛冶町広場	笠幡駅前広場	
4		ミライトワ	川越駅西口 ペDESTリアンデッキ	U PLACE (ユープレイス)	
5	狭山市	ミライトワ	狭山市民総合体育館		
6		ミライトワ	狭山市 市民交流センター	埼玉県庁第2庁舎 (管理者：埼玉県)	
7	朝霞市	ミライトワ	朝霞駅南口	朝霞市立 総合体育館	
8		ソメイティ			
9	和光市	ミライトワ	和光市総合体育館		
10		ソメイティ			
11	新座市	ミライトワ	新座駅南口	福祉の里	
12		ソメイティ			



▲ミライトワのスペクタキュラー(埼玉スタジアム2002)

環境美化・多言語対応の取り組み

きれいな街でおもてなし

きれいな街でお客様をお迎えし、会場を訪れる人の目を楽しませるため、清掃や飾花に取り組んだ。

また、外国人観戦客が円滑に移動し、快適に過ごせるよう競技会場や主な観光地周辺を中心に多言語案内表示や公衆無線 LAN の整備を行った。

清掃

清掃に健康づくりやスポーツの要素を取り込むことで、様々な年代の方が楽しみながら清掃活動に取り組んだ。

(1) スポ GOMI (ゴミ) 大会の実施

拾ったゴミの質と量を得点化しチームで競い合う、スポーツと清掃活動を兼ねたスポ GOMI 大会を実施した。

主催・開催場所	日時	参加者	ゴミ収量
県推進委員会 (越谷レイクタウン駅 及び大相模調節池周辺)	2018年7月22日(日) 9:00～10:45	95人 (23チーム)	27.62kg
上尾市 (アリオ上尾周辺)	2019年8月18日(日) 8:30～10:30	71人 (19チーム)	14.49kg
所沢市 (所沢航空記念公園周辺)	2019年10月27日(日) 13:00～15:00	44人 (13チーム)	30.54kg
富士見市 (文化の杜公園周辺)	2019年11月9日(土) 9:00～12:00	51人 (13チーム)	50.39kg
さいたま市立鈴谷小学校 (小学校区)	2019年11月16日(日) 9:00～11:00	112人 (25チーム)	47.08kg
新座市北野三丁目 (北野公園周辺)	2019年11月24日(日) 9:30～10:45	88人 (23チーム)	44.31kg
さいたま市立鈴谷小学校 (小学校区)	2020年2月5日(水) 10:00～12:00	101人 (19チーム)	42.71kg
県立川越西高等学校 (高校周辺)	2020年2月12日(水) 16:00～17:00	77人 (19チーム)	23.96kg



▲ゴミ拾いはスポーツだ! (鈴谷小学校)

(2) 啓発用ゴミ袋の作成・提供

東京 2020 大会に向けた県民の美化活動を後押しするため市町村等に啓発用ゴミ袋を配布した。

【作成数】900,000 枚

【配布先】地域での一斉清掃、スポ GOMI 大会、クリーンタイム、クリーンウォーク、都市ボランティア清掃活動

(3) クリーンタイムの推進

スポーツイベント等の終了前に観客や選手による会場内外の一斉清掃の実施を推進。埼玉県中学校体育連盟及び埼玉県高等学校体育連盟が中心となり、試合終了後に会場内や周辺のゴミ拾いを行った。



▲競技終了後に選手がゴミ拾い

飾花

県内農業関係高校の生徒が制作した花壇を会場最寄り駅や会場周辺などに設置した。また、組織委員会はフラワーレーンプロジェクトとして、県内 31 校の小学生が育てた朝顔を会場周辺に、さいたまの花普及促進協議会がさいたま新都心駅周辺にプランター 20 基を設置し、無観客となった会場に彩りを与えた。



▲さいたま新都心駅周辺に設置したプランター

多言語対応

県内競技会場・観客利用想定駅周辺や観光地等の多言語案内表示や無料公衆無線 LAN 等の整備を進めた。

(1) 多言語案内表示・公衆無線 LAN の整備

2016 (平成 28) 年度以降、403 カ所の多言語案内表示、98 カ所の公衆無線 LAN が整備された。4 つの競技会場周辺では、9 割以上の案内板が多言語化された。

(2) 普及啓発用小冊子の作成

飲食・宿泊施設の多言語対応や公衆無線 LAN の整備を促進するため、分かりやすい店内の表示や指差し会話シート、Wi-Fi 導入のメリットなどを掲載した小冊子を 25,000 部作成。飲食・小売店対象の講習会や巡回指導等で配布した。



▲普及啓発用小冊子

子供たちの東京 2020 大会への参画

子供たちが東京 2020 大会へ参画することは、豊かな人間性を育むとともに、その経験は生涯にわたってのレガシーとなる。子供たちのおもてなしの心を様々なかたちで表現し、大会の雰囲気盛り上げるプログラムを実施した。子供たちが制作した絵画、書、飾花、折鶴などの作品は県内の様々な場所で大会に彩りを添えた。

東京 2020 大会に向けて頑張る選手を応援する作品制作プロジェクト

「東京 2020 大会に向けて頑張る選手を応援しよう」をテーマに、絵画・書・工作物等の作品を制作してもらい、それらの作品の写真データを公募した。応募作品は、デジタルサイネージ、ポスター、オンラインで展示した。

(1) 応募対象

- ・2002 年 4 月 2 日から 2015 年 4 月 1 日までの間に生まれた者 (6 歳～19 歳)
- ・県内に居住又は県内の学校に在学している者

(2) 応募期間

2021 年 4 月 30 日～ 6 月 30 日

(3) 応募総数

165 作品

(4) 展示場所

【ポスター】

さいたま新都心駅、大宮駅、浦和駅、浦和美園駅、東武川越駅、朝霞駅、和光市駅

【デジタルサイネージ】

さいたま市役所、浦和駅、川越市役所、川越運動公園総合体育館、JR 川越駅、狭山市役所、狭山市市民交流センター、朝霞市役所、新座市役所

和紙の大型折鶴制作プロジェクト

和紙で大型の折鶴を制作するワークショップを開催した。完成した折鶴はゴルフ競技会場である霞ヶ関カンツリー倶楽部のクラブハウスに展示して、選手・関係者をお迎えした。

(1) ワークショップ実施日及び場所

2021 年 6 月 19 日 大宮盆栽美術館

(2) 参加者

16 人



▲大きな折鶴が完成

届けよう!伝えよう! 声援の花束プロジェクト

選手を応援する気持ちを込めた「花のイラスト」を公募した。応募作品は花束をモチーフにしたアート作品に加工して看板にし、JR 大宮駅コンコースに 2021 年 7 月 26 日から 8 月 8 日まで展示した。

(1) 応募対象

- ・県内に居住又は県内の学校に在学しているなど県にかかわりのある子供
- ・東京 2020 大会を応援している子供

(2) 応募期間

2021 年 5 月 26 日～ 6 月 13 日

(3) 応募総数

303 作品

県内開催競技をモチーフにした作品の制作プロジェクト

美術やデザインを専門に学ぶ高校生が「全力」をキーワードに県内競技をモチーフにした作品を制作した。作品は看板にして JR 大宮駅コンコースに 2021 年 7 月 26 日から 8 月 8 日まで展示して、広く県民に県内開催競技をアピールした。

【参加高校】

伊奈学園総合高等学校、大宮光陵高等学校、越生高等学校、新座総合技術高等学校

おもてなし花壇の設置プロジェクト

競技会場最寄り駅などの周辺に農業関係高校の生徒たちが制作した花壇を設置して大会の雰囲気盛り上げた。

(1) 設置場所

浦和駅東口、朝霞駅南口、さいたま新都心駅周辺、霞ヶ関カンツリー倶楽部周辺、和光市駅南口、ウェスタ川越、校内

(2) 参加高校

いずみ高等学校、川越総合高等学校、熊谷農業高等学校、児玉白楊高等学校、杉戸農業高等学校、秩父農工科学高等学校、鳩ヶ谷高等学校、羽生実業高等学校



▲可愛いマスコットも生徒の手作り